

平成24年度

事業報告書

社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団

平成24年度事業報告書目次

	ページ	
1. 概況	-----	1
2. 職員	-----	4
3. 組織	-----	5
4. 役員	-----	7
5. 会議等	-----	8
6. 研修	-----	11
7. 苦情解決処理状況	-----	12
8. 施設別事業実施の概要と評価		
(1) 秋田県北部老人福祉総合エリア	-----	13
(2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア	-----	17
(3) 秋田県南部老人福祉総合エリア	-----	20
(4) 秋田県高清水園	-----	28
(5) 秋田県心身障害者コロニー	-----	33
(6) 地域生活支援センターみずばやし	-----	40
(7) 秋田県阿桜園	-----	44
(8) やまばと園	-----	48
(9) 秋田県身体障害者更生訓練センター	-----	52
(10) 秋田県点字図書館	-----	56

1. 概 況

(1) 指定管理への対応

① 県の第二期（平成23年度～27年度）指定管理への対応

県所管課と運営協議会を開催するなど連携を図り、適正な運営に努め、5箇所の指定管理施設（北部老人福祉総合エリア・中央地区老人福祉総合エリア・南部老人福祉総合エリアコミュニティセンター・同老人専用マンション・点字図書館）について、平成24年度の事業計画等を基本とし、概ね計画通り実施することができた。

② 横手市及び湯沢雄勝広域市町村圏組合の指定管理への対応

横手市（横手市大森町生きがい創作館）、湯沢雄勝広域市町村圏組合（やまぼと園）の各指定管理施設は平成25年度が指定管理期間の最終年となることから、次期管理情報を収集しつつ、関係機関との連携に努め、適正な運営に努めた。

(2) 県有施設の譲与及び貸付への対応

譲与された1施設（みずばやし）、無償貸付された6施設（高清水園・心身障害者コロニー・阿桜園・身体障害者更生訓練センター・南部老人福祉総合エリア養護老人ホーム・同軽費老人ホーム）について、県から財政基盤を強化する支援を受けながら、平成24年度の事業計画等を基本とし、概ね計画通り実施することができた。

また、県健康福祉部と運営協議会を開催するなど連携を図り、適正な経営に努めた。

(3) 5ヵ年（平成23年から27年度まで）経営改善計画への取組

平成23年3月に策定し、平成24年8月に一部改訂した経営改善計画を目標とし、将来の自立経営の確立に向け、各施設において目標値を設けて取組んだ。

(4) 管理施設の運営状況

① 老人福祉総合エリアについて

中央地区老人福祉総合エリアと南部老人福祉総合エリアでは大規模改修工事が行われ、それぞれ2ヵ月間にわたり一部休業したことから、利用者数及び収入がともに前年度を下回った。一部休業期間中は「道の駅」へのパンフレット配置、「戸別ポスティング」等の営業・PR活動の強化に努めた。

また、3エリア合同で視察研修を行ったほか、収入増に向け、営業・PR活動の情報交換をより密にするよう努めた。

地域（社会）貢献の一環として、地域交流（農園作業）、無料開放、教育活動の支援（福祉セミナー）等を例年どおり実施した。

入居施設においては、高齢化が進み、それに伴い介護量が増加しているため、医療機関及び介護事業所との連携に努めた。

② 障害施設について

夏季には猛暑と残暑、冬季には大雪と寒冷に見舞われたが、室内温度管理に努めた結果、特に健康を害する利用者はいなかった。

複数の施設でノロウイルスやインフルエンザ等の感染症が発生したものの、マニュアルに基づき適切に対応し、重篤者を出すことなく終息した。

支援サービスについては入所支援が主であるものの、施設からグループホーム・ケアホーム等での地域生活への移行も進めつつ、そうした方々や在宅の方々の昼間支援サービスの利用の受入れにも努めた。

就労支援事業においては、生製品の販売拡大及び請負作業分野の開拓、営業の強化等に努めたほか、6月に公布された障害者優先調達推進法により自治体からの発注が増えるなどした結果、目指した工賃を達成することが出来た。

高清水園ほか5施設で、障害を持つ方の総合的な相談窓口として相談支援事業に取り組み、719件の相談を受けた。また、障害者自立支援法改正により、平成24年4月からサービス等利用計画の作成が義務づけられたことから、モニタリングも含め利用者等の支援に取り組んだ。

身体障害者更生訓練センターは、平成24年4月から就労継続支援B型事業を廃止するとともに、サービス事業内容を見直し、定員を自立（機能）訓練30名、生活介護40名、施設入所支援60名とした。

③ 施設維持管理等について

4月の爆弾低気圧により、北部老人福祉総合エリアでは樹木の倒木、心身障害者コロニーでは老朽化した建物の屋根の損壊等があったほか、他の施設においても被害があった。県に被害状況を報告するとともに対応を依頼した結果、北部エリアの倒木については県が伐採等により対策を講じてくれた。

また、中央地区老人福祉総合エリアではボイラー設備の都市ガス化（省エネ法に基づく二酸化炭素（CO₂）排出量の抑制）、南部老人福祉総合エリアでは館内の老朽化した給水管の交換等、県による大規模改修工事が実施された。

（5）自主事業の取り組み

地域密着型サービス外部評価事業等については、利用事業所が増加傾向にあるなど、事業が定着してきている。居宅介護支援事業については地域住民の利用も増えている。また訪問介護事業等については、利用者はエリア入居者のみであるが、需要は定着してきており、ニーズへの対応に努めた。

障害児（者）施設においては、共同生活援助事業（グループホーム）、共同生活介護事業（ケアホーム）に取り組み、地域生活支援に努めた。

なお、介護サービス情報の調査事業は、平成24年度から秋田県長寿社会振興

財団が所管することになったことから、平成23年度で廃止した。

事業名	利用状況	前年度利用状況(人数)
地域密着型サービス外部評価事業	62件	57件
居宅介護支援事業	851人	826人
訪問介護事業	9,909人	10,862人
共同生活援助事業	85人(18棟)	85人(18棟)
共同生活介護事業	83人(17棟)	73人(15棟)

注1) 共同生活援助事業、共同生活介護事業は定員。

(6) サービスの向上

ISO9001に準じた当事業団独自の「ハイクオリティサービス推進システム」(通称～まごころシステム～)について、引き続きシステムの継続的改善(PDCA)の運用を推し進め、良質かつ適切な福祉サービスの提供に努めた。

また、東日本大震災を踏まえ、緊急時の予防・対応マニュアルに掲載する備蓄非常用品等について、大規模災害を想定し、内容の見直しと検討を行った。

(7) 人材育成

研修体系に基づき、法人内、施設内、法人外研修に積極的に取り組み、人材育成と職員のスキルアップを図った。法人内研修においては、課長職以上、経験5年以上、事務担当職員、リスクマネージャーの職務にある職員を対象に「階層別研修」、「能力開発研修」を行った。各施設においては正職員が講師となり、准職員への福祉の知識・技術習得研修を行い、互いの研鑽に努めた。

また、施設長級を対象に、能力開発促進への足掛かりの取り組みとして、人事考課を試行的に行った。

(8) 職員採用

正職員の年齢構成の平準化とキャリア育成、業務内容の継承等を見据え、職員採用計画に基づき、公募により、平成25年4月1日付けで任用となる福祉職9名、看護師1名、電気技師1名を採用した。

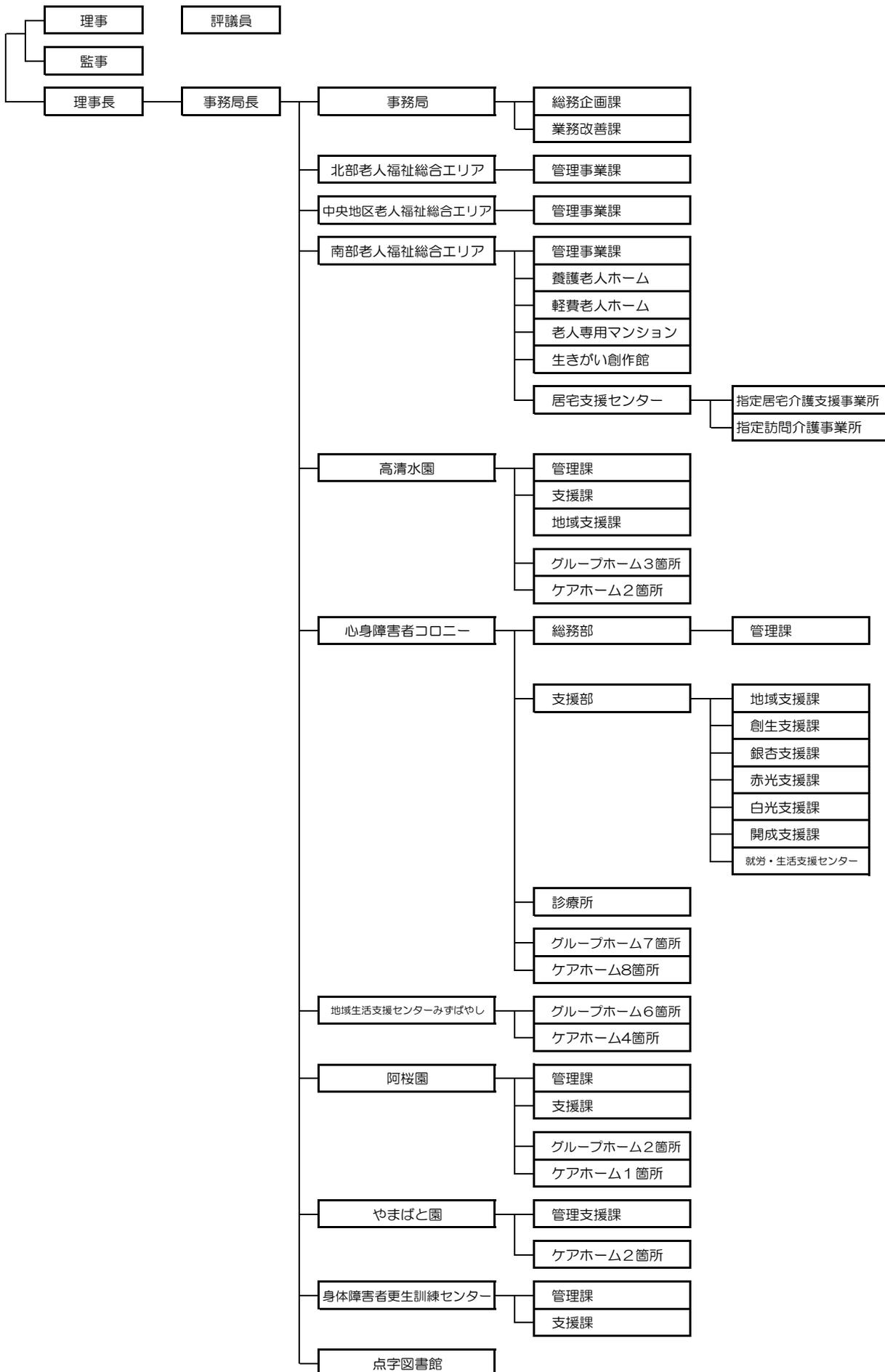
(9) 社会貢献

社会福祉法人の社会貢献が求められる中、本事業団の活動として、東日本大震災の被災地において、当事業団職員互助会の協力の下、2回のボランティア活動を実施した。

この活動は今後も継続していくこととする。

3. 組織

平成25年3月31日現在



施設一覽

平成25年3月31日現在

施設名	施設種別	所在地		定員(人)
秋田県北部老人福祉総合エリア	利用施設	大館市十二所字平内新田237-1	H11. 8. 1	宿泊定員 50
秋田県中央地区老人福祉総合エリア	利用施設	秋田市御所野下堤5丁目1-1	H 9. 8. 1	宿泊定員 64
秋田県南部老人福祉総合エリア			S63. 7. 1	
コミュニティセンター	利用施設	横手市大森町字菅生田245-34	(S63. 7. 1)	宿泊定員 129
養護老人ホーム	老人福祉施設		(H 1. 2. 1)	50
軽費老人ホーム	老人福祉施設		(H 2. 7. 1)	50
老人専用マンション	利用施設		(H 3.10. 1)	24
横手市大森町生きがい創作館	利用施設		(S64. 1. 4)	—
指定居宅介護支援事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
指定訪問介護事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
秋田県高清水園	障害者支援施設 知的障害児施設	秋田市上北手猿田字苗代沢14-1	H 9. 4. 1 H 9. 4. 1	60 40
グループホーム「結」	知的障害者グループホーム	秋田市広面字碓21-9	H14.10.1	5
グループホーム「みのり」	知的障害者グループホーム	秋田市広面字鬼頭109-3	H16.11.1	5
グループホーム「さくら」	知的障害者グループホーム	秋田市桜4丁目18-21	H18.5.1	4
ケアホーム「あおぞら」	知的障害者ケアホーム	秋田市上北手百崎字境田30	H20.4.1	6
ケアホーム「彩」	知的障害者ケアホーム	秋田市横森5丁目10-24	H21.4.1	5
秋田県心身障害者コロンニー			S46. 4. 1	
創生支援課	障害者支援施設	由利本荘市西目町出戸字孫七山3-2	(S46. 4. 1)	100
銀杏支援課	障害者支援施設		(S47. 4. 1)	100
赤光支援課	障害者支援施設		(S48. 4. 1)	100
白光支援課	障害者支援施設		(S49. 1. 1)	100
開成支援課	障害者支援施設		(H 8. 4. 1)	50
開成支援課	障害者支援施設		(S49. 6. 1)	50
診療所	診療所		(H 2. 4. 1)	—
グループホーム「わかまつ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下679-8	H11.10.1	6
グループホーム「やすらぎ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-183	H12.10.1	6
グループホーム「そよかぜ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-330	H13.10.1	4
グループホーム「わかば」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字西潟346-14	H16.2.1	4
グループホーム「はまなす」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-697	H17.4.1	4
グループホーム「まつかぜ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-415	H21.11.1	6
グループホーム「しおさい」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-119	H23.4.1	5
ケアホーム「あおぞら」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町沼田字西潟315-4	H13.10.1	4
ケアホーム「お月森」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海士剥字海士剥52-48	H23.4.1	5
ケアホーム「ひだまり」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海士剥字海士剥下57-1	H22.10.1	5
ケアホーム「やまと」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下744-7	H24.1.1	4
ケアホーム「なでしこA」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海士剥字海士剥57	H24.1.1	4
ケアホーム「なでしこB」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海士剥字海士剥57	H24.1.1	5
ケアホーム「かもめ」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-223	H24.9.1	5
ケアホーム「はまやま」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-261	H25.3.1	5
地域生活支援センターみずばやし	障害福祉サービス事業所	由利本荘市訓練場1-1	H24.1.1	30
グループホーム「翼」	知的障害者グループホーム	由利本荘市薬師堂字山崎145-7	H 2. 4. 1	4
グループホーム「清和」	知的障害者グループホーム	由利本荘市石脇字田尻野31-8	H 4. 4. 1	5
グループホーム「めぐみ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市水林402-22	H 7. 4. 1	5
グループホーム「朋」	知的障害者グループホーム	由利本荘市大鍛町100-21	H11.10.1	5
グループホーム「虹」	知的障害者グループホーム	由利本荘市石脇字田尻28-20	H23.7.1	4
グループホーム「そら」	知的障害者グループホーム	由利本荘市御門1番地2	H23.12.1	5
ケアホーム「三愛A」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
ケアホーム「三愛B」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
ケアホーム「菖蒲」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市給人町70-5	H 9.10. 1	5
ケアホーム「若菜」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市水林389-3	H24.1.1	5
秋田県阿桜園	障害者支援施設 知的障害児施設	横手市赤坂字仁坂105	H 2. 4. 1 S39.4.25	70 50
グループホーム「希望」	知的障害者グループホーム	横手市婦気大堤字南巻114	H 6. 4. 1	4
グループホーム「あさひ」	知的障害者グループホーム	横手市朝日が丘3丁目4-1	H16.1.15	4
ケアホーム「あざみ」	知的障害者ケアホーム	横手市婦気大堤字平林1-104	H23.4.1	5
湯沢雄勝広域市町村圏組合	障害者支援施設	湯沢市三梨町字飯田ニッ森43	H15.4.1	50
やまばと園	知的障害児施設		(S49.10.1)	10
ケアホーム「ぼってりー」	知的障害者ケアホーム		H 21. 4. 1	5
ケアホーム「のどか」	知的障害者ケアホーム	湯沢市荒町7-2	H 23. 4. 1	5
秋田県身体障害者更生訓練センター	障害者支援施設	秋田市新屋下川原町2-3	S55. 7. 1	60
秋田県点字図書館	視聴覚障害者 情報提供施設	秋田市土崎港南3丁目2-58	S60. 4. 1	—

4. 役員

(1) 平成24年度の役員体制

(平成24年6月1日)

役職名	氏名	現(元)職名
理事長	加藤和隆	元秋田県人事委員会事務局長
理事	柴田一宏	柴田一宏法律事務所
理事	太田春海	秋田県民生児童委員協議会長
理事	内海淳	秋田大学教育文化学部准教授
理事	高橋豊	秋田県社会福祉協議会常務理事
理事	市川講二	秋田県健康福祉部長
理事	吉原まり江	秋田県心身障害者コロニー管理者
監事	前田正人	前田公認会計士事務所長
監事	田中政博	元秋田市財政部長

(2) 平成24年度の評議員体制

(平成24年6月1日)

役職名	氏名	現(元)職名
評議員	遠藤博之	秋田県立医療療育センター理事長
評議員	渡辺久子	社会福祉法人秋田けやき会 ケアハウスウエルハウス御所野施設長
評議員	田沼昭男	秋田県社会福祉施設経営者協議会長
評議員	柴田博	秋田看護福祉大学福祉学科教授
評議員	高橋美岐子	日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科長
評議員	中村信弘	秋田県高等学校長協会特別支援学校部会長
評議員	谷内和夫	秋田県手をつなぐ育成会長
評議員	佐藤善五郎	秋田県高清水園親の会会長
評議員	榎本義孝	秋田県老人クラブ連合会長
評議員	伊藤英紀	秋田県身体障害者福祉協議会長
評議員	烏トキエ	秋田県看護協会長
評議員	佐藤良吉	横手市副市長
評議員	石川裕	由利本荘市副市長
評議員	佐藤寿美	秋田県健康福祉部福祉政策課長
評議員	和田士郎	秋田県高清水園長

5. 会議等

(1) 評議員会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成24年 6月 1日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	1 社会福祉法人秋田県社会福祉事業団役員の選任について	同意
平成25年 3月15日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	1 秋田県社会福祉事業団定款細則の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団事務決裁規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 7 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 8 平成24年度補正予算(案)の同意について 9 平成25年度事業計画(案)及び当初予算(案)の同意について 10 役員の選任について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 同意 同意 承認

(2) 理事会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成24年 5月24日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	1 秋田県社会福祉事業団定款の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団定款施行細則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団役員の給与報酬及び費用弁償規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 7 平成23年度事業報告及び決算(案)の認定について 8 評議員の選定について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 認定 同意
平成24年 6月 1日	中央地区老人福祉 総合エリア視聴覚室	1 秋田県社会福祉事業団役員の選任について 2 秋田県社会福祉事業団理事長の互選について	承認 承認
平成25年 3月22日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	1 秋田県社会福祉事業団定款細則の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団事務決裁規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 7 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 8 平成24年度補正予算(案)の同意について 9 平成25年度事業計画(案)及び当初予算(案)の同意について 10 施設長の任命について 11 役員の選任について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 同意 同意 承認 承認

(3) 監事の監査

開催年月日	会場等	付議事項
平成24年 5月 9日 5月10日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	平成23年度事業の執行状況及び収支決算状況について
平成24年10月19日	秋田県心身障害者 コロニー会議室	秋田県心身障害者コロニー監査指導について

(4) 施設長会議

開催年月日	会場等	付議事項
平成24年 5月16日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成24年度第1回秋田県社会福祉事業団理事会議案関係について 2 監事監査の指導助言事項等について 3 平成24年度予算執行関係について 4 平成24年4月4日(水)暴風による被害状況について 5 平成24年度各施設重点事項について 6 平成23年度施設別経営改善計画評価報告について 7 エリア運営協議会について 8 平成24年度第1回理事会について 9 平成24年度第1回評議員会について 10 平成24年度第2回理事会について 11 その他
平成24年12月13日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 秋田県人事委員会の勧告について 2 平成25年度秋田県社会福祉事業団職員採用について 3 平成24年度内部経理監査結果等について 4 平成24年度職員提案及び平成23年度職員提案進捗状況について 5 平成25年度人事異動ヒアリング日程について 6 公益活動を推進する各種団体等の助成事業の活用について 7 譲渡・貸与社会福祉施設運営協議会の概要報告について 8 平成24年度人事考課（試行）について 9 東日本大震災被災地支援ボランティア活動報告等について 10 法令遵守・職員の綱紀の粛正等について 11 グループホーム・ケアホームの防火安全対策等について 12 労働契約法改正のポイントについて 13 高年齢者雇用安定法の改正について 14 障害者雇用の推進について 15 その他

開催年月日	会場等	付議事項
平成25年 3月 7日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 准職員の退職金手当について 2 平成24年度第2回評議員会及び第3回理事会議案について 3 平成24年度補正予算（案）及び平成25年度当初予算（案）について 4 電気料金の値上げについて 5 月別利用状況（平成25年1月末現在）について 6 職員提案の取り組みについて 職員の名札について 7 職員提案の取り組みについて 緊急一斉送信メールについて 8 職員提案の取り組みについて 介護技術に関する研修について 9 平成25年度職員研修計画について 10 障害者雇用について 11 職員台帳の見直しについて 12 防災マニュアルに係る非常用物品について 13 評議員会について 14 理事会について 15 退職者辞令交付式について 16 定期人事異動（課長職以上）・新規採用職員辞令交付式について 17 その他

6. 研修

(1) 主な施設内研修

- ・ 新任・転任職員研修
- ・ 接遇研修
- ・ 救急救命講習（AED講習を含む）
- ・ OJT研修
- ・ 感染症予防研修
- ・ ハイクオリティサービス推進システム研修
- ・ 各種技術取得研修
- ・ 施設見学、施設体験研修
- ・ パソコンスキルアップ研修
- ・ 3エリア営業担当者研修
- ・ サービス管理責任者研修

(2) 主な事業団内研修

- ・ 新任職員研修
- ・ 内部監査員研修
- ・ 能力開発研修Ⅰ（事務担当職員研修）
- ・ 階層別研修Ⅱ（指導者育成）
- ・ 階層別研修Ⅲ（施設経営・管理研修）
- ・ コンプライアンス研修（障害者虐待防止法に関する研修）

(3) 主な事業団外研修

- ・ 全国社会福祉事業団協議会中央研修
- ・ 全国グループホーム・ケアホーム等研修会
- ・ 北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修
- ・ 東北地区知的障害者福祉協会施設長連絡協議会
- ・ 東北地区知的障害者福祉協会施設職員研究協議会
- ・ 施設給食担当職員研修
- ・ 福祉保健施設・事業者等職員新任研修
- ・ 福祉保健施設・事業者等職員中堅研修
- ・ 秋田県サービス管理責任者研修
- ・ 相談支援従事者研修
- ・ 障害者虐待防止・権利擁護研修

7. 苦情解決処理状況

(1) 過去5年間における苦情件数の推移

年 度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
件 数	120	98	70	49	39

(2) 平成24年度施設別件数

	(職員の接遇等)	(サービスの質・量)	説明・情報提供	施設・設備	制度・政策	金 銭	被害・損害	権利侵害	その他	計	(継続中の件数)
北部老人福祉総合エリア										0	0
中央地区老人福祉総合エリア				3					1	4	0
南部老人福祉総合エリア										0	0
高清水園	1	1	1	1			1			5	0
心身障害者コロニー	1	2	3			1	2		3	12	0
みずばやし									3	3	0
阿桜園	4									4	1
やまばと園	4									4	0
身体障害者更生訓練センター	1	2					1		3	7	0
点字図書館										0	0
計	11	5	4	4	0	1	4	0	10	39	0

(3) 平成24年度苦情の主な内容

	内容の分類	件数	割合	内 容	例
利用施設	施設・設備	3	75%	大浴場の設備に関すること	大浴場のシャワー水栓からお湯や水が出ない。 →ボイラー給湯スイッチの確認の徹底を図る。
	その他	1	25%	テナント職員の接遇に関すること	レストラン店主の接客態度に気分を害した。 →レストラン店主に接客対応の改善をお願いする。
障害施設・老人施設	サービス内容 (職員の接遇等)	11	31%	職員の接遇に関すること	職員の電話対応の言葉づかいが不適切だった。 →接遇研修を実施し再発防止に努める。
	サービス内容 (サービスの質と量)	5	14%	給食に関すること	給食で提供された副食について不満がある。 →副食の盛り付け等に配慮する。
	説明・情報提供	4	11%	利用者の状態報告に関すること	保護者に対し、利用者の怪我に関する情報提供が遅れた。 →保護者の連絡先を確認し、職員間で周知を図る。
	被害・損害	4	11%	他利用者からの迷惑行為に関すること	他利用者からの迷惑行為があり不愉快である。 →迷惑行為について注意し、職員間の見守り強化を図る。
	その他	9	26%	地域生活利用者の迷惑行為に関すること	散歩の際、他人の自宅敷地内に入ることがあるため改善してほしい。 →当利用者に説明し理解を得る。職員間の見守りを行う。

※上段は申出、下段は解決の内容

8. 施設別事業実施の概要と評価

(1) 秋田県北部老人福祉総合エリア

○施設運営の概要

1) 営業活動の強化

3エリア協働による営業・広報戦略として、合同の視察研修、パンフレット及びロゴ作成等について検討をし、実行することができた。また、地元メディアによる企画・イベント広告に加え、大館樹海ドームに年間契約で広告看板を設置したところ、年度末の芸能・イベント関係団体の宿泊に繋がった。

2) 事業活動の拡充

例年とほぼ同様の事業内容であり、策定した計画どおりに行うことができた。なお、4月から3ヶ月間、朝6時から8時までの時間帯に試行として朝風呂を実施したが、利用が伸びず、試行期間の終了をもって打ち切った。

①リピーターの確保対策

これまで同様、優待デー（シルバー・デー、レディス・デー、メンズ・デー）を継続し、入浴（休憩）の一般利用料金を600円から500円に割引することにより料金面での利用しやすさをアピールした。

3月には学校の春休み期間に合わせ「お客様感謝祭」を開催し、芸能ステージ、ゆるキャラ着ぐるみ等の企画に加え、地域の病院・商店・自治会等の協力を得た各種企画により、多くの来場者で賑った。

②小・中・高校などへの事業展開

県社会福祉協議会との共催により、恒例となった進路ガイダンス・高校生福祉セミナーを開催し、9校32人の参加が得られ、地域福祉活動を推進することができた。また、前年度に引き続き、北鹿地域の小学校への出張スポーツ体験を実施し、11件643人の参加を得た。

③生きがい活動支援の各種教室及び健康推進事業

木工、陶芸、園芸、茶道等の教室は、延べ302回（1,918人）の開催となった。また、健康づくり事業は、ユニカール、グラウンドゴルフ、ペタンク、バドミントン、ラージボール卓球等の交流会及び大会を開催した。

④その他

団体利用としては、8月16日から3日間の東北ミニ国体のバスケットボール競技に参加する選手・監督、3月24日から12日間は芸能・イベント関係者の宿泊があった。

電気の使用については、計画的な機器の運転と照明具の使用に努め、デマンドコントローラの設置により最大需要電力量の監視・調整を行うなど、お客様への適切なサービスや安全な施設機能の提供が損なわれることのない範囲で節電を心がけたが、夏の猛暑や冬の寒冷により、前年度比107.6%の使用量であった。

○世代間交流及び利用の促進

1) 施設利用状況

平成24年度の北部エリア総利用者数は82,979人で、前年度比4.4%、3,554人の増となった。有料部門は全体で366人減、44,001人の利用で、主な状況は休憩（入浴）が1,183人減の29,681人、宿泊が327人増の2,804人、テニスコートは163人減の1,532人となっている。無料部門は3,920人増の38,978人となっている。

「県の記念日」「敬老の日」には、休憩（入浴）・テニスコートの無料開放を行い、エリア機能・事業内容等の周知を図るとともに、利用の拡大につながるよう、PRに努めた。

2) 世代間交流

恒例となった保育園児と老人クラブの方々によるサツマイモの苗植えと収穫作業を実施し交流を深めた。

3) 子育て支援

子育て支援に関連する取り組みとして、昨年度スタートの「キッズコーナー」は、授乳室やおむつ交換台が揃っている施設として秋田県から「こどものえき」の認定を受け、情報誌等でも取り上げられたことから、多くの親子連れで賑わった。

4) 利用しやすい施設づくり・その他

市社会福祉協議会主催の大館ボランティアフェスティバル（2,800人の参加）、同じく市社協の地域福祉事業のはつらつ弁当事業（191人の利用）、市総合防災訓練の会場（350人の参加）、県の東日本大震災避難者地域交流会及び被災者交流サロンなど、行政・団体が主催する事業へ積極的に協力した。

○3エリア会議の充実

各エリアの情報交換や、協働、共通の認識をもって実施する事業の意思決定を迅速に行うことを目的に、3エリアの職員が定期的集まる3エリア会議を3回実施した。各エリア独自の誘客の企画やその成果報告、運営課題と今後の取り組み方法等について意見を交換した。

○職員の資質向上

対人関係をスムーズにこなせるコミュニケーション技術・ビジネスマナーの基本を学び習慣づけることが、職場の風通しを良くしリピーターの確保につながるため最短で最良の方法と考え、3エリア合同で専門講師を招聘し講習を実施した。以来、毎朝、全職員でマナーのポイントや挨拶の唱和を行っている。

管理職2名が個別面談を行い、自己評価シートをもとに業務の課題や反省点について意見を交換する場を設けるとともに、健康状態の把握と対処に努めた。

○設備の修繕・環境整備等

1) 修繕・更新

浄化槽ポンプ、配管ガス漏れ、送迎用バスのエアコン設備等の修繕の他、レストラン空調用室外機や蓄電池の更新等を行った。また、タバコを吸わないお客様の受動喫煙防止と喫煙を希望されるお客様に配慮し、館内の喫煙ルームを移設した。

また、秋田県により、気中開閉器及び浴槽シャワー・カランの更新工事が行われ、安全で快適に利用していただけるようになった。

2) 環境整備

4月3日に発生した爆弾低気圧に伴う65本の倒木・半倒木については、緊急を要する箇所は当エリアの予算で処理し、それ以外の倒木処理は県の補正予算で対応していただき、適切に対処することができた。

○衛生・安全対策

隣接の大館保健所や秋田労災病院、大館市消防署の協力を得、感染症防止や緊急時の応急手当対処法について学ぶ機会を設け、安全意識の高揚に努めた。

また、2月には当エリアの駐車場がドクターヘリの臨時離発着場として登録され、3月下旬には消防署から要請があり、これに応じた。

防災訓練は2回実施し、職員の防災意識の高揚と防災体制の確立に努めた。

○苦情解決処理状況

要綱に規定する苦情案件は無く、10月と3月に行われた苦情解決状況報告会では、顧客満足度調査の意見・要望とそれに対する回答と処置について報告をして助言等を得た。

平成24年度北部老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位；人

区 分		年 間 合 計 (人)		比較増減
		平成24年度	平成23年度	
有 料	休 憩	29,681	30,864	△ 1,183
	宿 泊	2,804	2,477	327
	会 議 室 等	4,722	5,184	△ 462
	屋内運動広場	3,304	2,404	900
	茶 室	40	27	13
	テニスコート	1,532	1,695	△ 163
	自主企画事業	1,918	1,716	202
	小 計	44,001	44,367	△ 366
無 料	屋内運動広場	27,061	24,624	2,437
	屋外運動施設等	463	342	121
	自主企画事業	11,164	9,666	1,498
	視 察 等	290	426	△ 136
	小 計	38,978	35,058	3,920
合 計		82,979	79,425	3,554

2. 各種自主企画事業利用状況

※単位；人 ()内は開催回数

区 分		平成24年度	平成23年度	比較増減
生 活 活 動	陶 芸	1169 (123)	1010 (115)	159 (8)
	木 工	467 (148)	323 (121)	144 (27)
	園 芸	116 (16)	212 (21)	△ 96 (△ 5)
	茶 道	141 (12)	163 (12)	△ 22 (0)
	書 道	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	その他の教室	25 (3)	8 (1)	17 (2)
	小 計	1,918 (302)	1,716 (270)	202 (32)

区 分		平成24年度	平成23年度	比較増減
健康 づくり	スポーツ大会等	1,262 (20)	1,164 (18)	98 (2)
	各種教室等	()	(0)	0 (0)
	小 計	1,262 (20)	1,164 (18)	98 (2)
交流 活動	交流イベント等	4,035 (21)	3,321 (18)	714 (3)
	小 計	4,035 (21)	3,321 (18)	714 (3)
そ の 他	映 写 会	3,716 (160)	3,647 (127)	69 (33)
	無 料 開 放	485 (2)	774 (2)	△ 289 (0)
	ポイントカード等	1,666 (1,666)	760 (760)	906 (906)
	小 計	5,867 (1,828)	5,181 (889)	686 (939)
合 計		11,164 (1,869)	9,666 (925)	1,498 (944)

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位;人

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
コミュニティセンター利用者数	88,142	91,655	84,914	79,425	82,979

(2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア

○施設運営の概要

1) 営業活動の強化

平成24年度は、新規に秋田駅東西連絡通路の電飾広告やTVスポットCMによる広報活動や、全県の道の駅へのパンフレットの設置、体育協会への営業活動を実施するなど、利用の促進に努めた。また、工事による休業後の営業再開時には新聞広告や折り込みチラシによる広報や日中入浴半額割引を実施し利用客の確保に努めた。

このほか、次年度の広報活動に向けて新規にロゴマークと3エリア合同パンフレットを作成した。

2) 事業活動の拡充

世代間交流事業として冬期間にエリア感謝祭を開催し、子供縁日や出店コーナー、フリーマーケット、エリア教室の体験コーナーや秋田お笑い大使の桂三若氏の落語、民謡ショーなどの催し物で多くの世代の方に楽しんでいただいたが、当日は天候に恵まれず、開催日については今後の課題とした。

また、スポーツ団体との連携による、エリアを会場にした小学生低学年対象のスポーツ体験教室を年間11回開催し、延べ369人の子供たちの参加があり、県内のトップ選手とスポーツを楽しんだ。

このほか、休憩（入浴）の利用者に対し大広間で演芸ボランティアによる民謡等の披露を定期的に行い、サービスの向上に努めた。

プールを活用した秋田市から受託の介護予防事業の「はつらつくらぶ」については、年々参加者が増え、前年度比85人増の850人の利用があり、健康に対する意識の高さが伺えた。

生きがい活動の支援として、木工、陶芸、シルバーアクセサリー、編物、茶道、華道等の教室を継続開催したほか、夏・冬休みには親子体験（陶芸・七宝焼）教室を開催した。また、新規に彫金教室を開催した。

3) 施設整備

平成24年度の大規模修繕工事として、4月～5月の2か月間ボイラーの更新工事を実施した。工事期間中は、休憩（入浴）、プール、宿泊部門が休業となった。このほか、グラウンドゴルフ場の造成工事が行われ、25年度は一定期間養生のため使用できない状態となっている。

故障した電光掲示板の代わりに70インチのモニターを設置し、サービスの維持に努めた。

○世代間交流及び利用の促進

総利用者数は、137,952人で前年度比9,849人の減となった。有料部門では、4,848人、無料部門が、5,001人とそれぞれが減となった。

いずれも大規模修繕工事による休業の影響によるものとなっており、内訳として、休憩（入浴）が7,799人減の38,210人、宿泊は409人減の2,671人、プール利用については、1,054人の減となっている。影響の少なかった屋内運動広場については900人、会議室等が1,943人の増となっており、特に屋内運動広場は、バレーボールや剣道など新しい団体の利用もみられ、一定の需要が見込まれる部門である。

また、水泳教室については、休業期間中は県立プールを会場にして継続開催を図ったほか、プール職員による体育教室を開催し、収入の確保に努めた。

ふれあい農園を利用した世代間交流事業では、保育園児とエリア入居者、地域住民の方々によるサツマイモの苗植え・収穫作業を実施した。この交流会はエリア入居者の方々の励みになっている。

生きがい・健康づくりの各教室は、年間489回開催し5,301人の参加があった。

「県の記念日」「敬老の日」に休憩（入浴）とプールの無料開放を行い、延べ1,090人の利用があり、施設の周知活動の一環として利用の促進に努めた。

○衛生・安全対策

プールや浴場のレジオネラ属菌対策として、年2回の検査を実施したほか、日常清掃や塩素消毒及び設備の洗浄等を実施し、衛生管理の徹底に努めた。

防災関係では、年2回の総合防災訓練を実施するとともに、部分訓練として一人勤務時の火災報知器の対応についての個別訓練を実施し、防災意識の高揚と防災体制の確立に努めた。

救急対応として、定期的に普通救急救命講習を受講しAEDの操作技能の保持に努めるとともに、不審者対応訓練を継続実施し利用者の安全確保に努めた。

その他として、秋田市の地域防災計画の避難所及び避難場所として指定された。

○苦情解決処理状況

24年度の苦情処理状況として、施設・設備等に関するものが3件、テナントに関するものが1件の計4件となっている。寄せられた意見については、職員に周知を図るとともに協議のうえ回答を館内掲示した。また、年2回、第三者委員へ報告し、対応についての指導・助言を得ている。

平成24年度中央地区老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

区 分		年 間 合 計 (人)		比較増減
		平成24年度	平成23年度	
有 料	休 憩	38,210	46,009	△ 7,799
	宿 泊	2,671	3,080	△ 409
	会 議 室 等	27,076	25,133	1,943
	屋内運動広場	11,325	10,425	900
	陶 芸 室 等	1,593	1,471	122
	プ ー ル	31,543	32,597	△ 1,054
	休憩&プールセット	597	844	△ 247
	各種自主事業等	5,301	3,605	1,696
	小 計	118,316	123,164	△ 4,848
無 料	屋内運動広場	16,340	21,287	△ 4,947
	屋外運動施設等	765	715	50
	各種自主事業等	2,435	2,434	1
	視 察 等	96	201	△ 105
	小 計	19,636	24,637	△ 5,001
合 計		137,952	147,801	△ 9,849

※プール利用人数には水泳教室参加者4,416人含む

2. 各種自主事業等利用状況

区 分		平成24年度	平成23年度	比較増減	
生 活 活 動	有 料	木 工	280 (58)	320 (84)	△ 40 (△ 26)
		陶 芸	939 (96)	600 (48)	339 (48)
		銀 粘 土	111 (24)	120 (24)	△ 9 (0)
		華 道	132 (24)	131 (24)	1 (0)
		茶 道	199 (24)	169 (24)	30 (0)
		編 み 物	108 (24)	155 (24)	△ 47 (0)
		俳 句	121 (12)	134 (12)	△ 13 (0)
		その他の教室	173 (12)	86 (5)	87 (7)
小 計		2,063 (274)	1,715 (245)	348 (29)	
健 康 づ くり 活 動	有 料	太 極 拳	947 (36)	758 (36)	189 (0)
		ボ ー ル E X	377 (32)	367 (32)	10 (0)
		は っ ぽ り 事 業	850 (36)	765 (36)	85 (0)
		体 育 教 室	729 (52)	0 (0)	729 (52)
		水 泳 教 室	335 (59)	0 (0)	335 (59)
		小 計	3,238 (215)	1,890 (104)	1,348 (111)
合 計		5,301 (489)	3,605 (349)	1,696 (140)	

健 康 有 料	水 泳 教 室	4,416 (529)	5,018 (560)	△ 602 (△ 31)
合 計		4,416 (529)	5,018 (560)	△ 602 (△ 31)

区 分		平成24年度	平成23年度	比較増減	
そ の 他	無 料	映 写 会	756 (69)	779 (89)	△ 23 (△ 20)
		ポ イ ン ト カ ー ド	230 (230)	320 (320)	△ 90 (△ 90)
		無 料 開 放	1,090 (2)	1,012 (2)	78 (0)
		ボ ラ ン テ ィ ア ル ル ーム	359 (31)	323 (23)	36 (8)
合 計		2,435 (332)	2,434 (434)	1 (△ 102)	

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位:人

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
コミュニティセンター利用者数	165,888	155,016	139,779	147,801	137,952

(3) 秋田県南部老人福祉総合エリア

○施設運営の概要

1) 営業活動の強化

営業活動については、営業・広報担当が協力し、エリアの機能や利用施設について積極的な広報活動に努めた。その結果、老人クラブや生き生きサロン等で36件、755人の利用があった。また、営業担当を中心としてマスメディアの活用のほか、新聞折り込みや民間のチラシ広告の利用等、広範囲にわたる広報活動を展開した。

9、10月は給水設備改修工事の関係で入浴休憩及びプールの利用ができなかったが、横手市全域を対象にポスティングによるチラシ配布(13回 4,974枚)を行い広報活動に努めた。また、その期間に新たな企画として2回「ミニイベント」を開催しエリアの周知、集客に努めた。

テナント、特にレストランとの連携を強化し、団体利用や主催イベント時に魅力ある食事提供サービスを行い、食によるリピーターの確保に努めた。また、隣接している市立大森病院には多くの来院者があるため、同病院の協力を得て、ポスターやチラシによる広告を行い、レストランの周知と利用促進に努めた。

2) 事業活動の拡充

- ① 夏祭りには昨年に引き続き、白寿園と協賛して花火の打ち上げを実施した。花火の協賛金の一部は被災地への義援金に充てた。
- ② 生き生き学園、自主活動の開催回数は503回で、参加者総数は4,347人だった。教室の内容の充実を図り、「お知らせ」の内容を工夫しPRに努めた。教室での活動を通して入居者や地域、世代間の交流が図られた。
- ③ 地域で活躍している個人、団体等の作品展示の場としてミニミニギャラリーを開催している。「佐々木ひでお氏作品展」は新聞に掲載されたこともあり鑑賞者が多く好評だった。
- ④ 各種スポーツ大会は、エリア杯グラウンドゴルフ大会、ゲートボール大会、スマイルボウリング大会を延べ5回開催し435人の参加があった。冬期間の健康作りの場として愛好者が増加しており、開催時期と内容を工夫することで一層の参加者増が見込まれる。
- ⑤ 地域福祉推進活動として、県指定の「介護員養成研修2級課程」(36人)、県社会福祉協議会との共催による高校生対象の「福祉セミナー&進路ガイダンス」(9高校27人)、県リハビリセンターとの共催による「リハビリ健康教室」(28人 エリア内施設入所者21人、地域住民7人)を実施した。その他、福祉車両貸出し(利用件数35件、利用延べ日数52日)を継続して実施している。

3) 施設設備

- ① 給水設備改修工事が前年度末の3月16日から10月31日までの工期で順次施行された。騒音や振動の発生に対する、一般利用者や入居者から苦情等もなく進行したのは、各部署の事前連絡、広報によるところが大きかったと思われる。各施設においては、入居者の居室移動、入浴日時変更等の協力を得ることができた。
- ② 高圧ケーブル更新工事が1月18日より3月22日までの期間、気中負荷開閉器の更新工事と併せ県により施行された。2回の停電作業があったが、各施設及び白寿園の協力により予定通り終了することができた。
- ③ 軽費老人ホームのナースコール増設工事は8月27日より9月11日まで行われ、各居室内トイレにナースコール呼び出しボタンを増設した。入居者の協力によりスムーズに進行することができた。

4) その他

- ① 節電対策については、職員会議等で全施設に対し協力を要請し節電に努めたが、記録的な猛暑であり、エアコン等の使用によって消費量が増加した。
- ② レストラン「黒'S」が5月3日にリニューアルオープンした。
- ③ 5月15、16日の2日間、ロータリークラブ主催の音楽コンサートが開催された。近隣施設にも参加を呼び掛け、盛会であった。
- ④ 9月から10月までの給水管改修工事に伴い、入浴休憩、プールが利用できなかった。その期間、横手市全域にわたりポスティングを行い広報活動に努めた。また、環境整備として休憩室、宿泊室の障子の張り替え、大広間の襖の張り替えを行った。

○世代間交流及び利用の促進

平成24年度の総利用者数は99,585人で前年度比18,711人の減、全体としては、有料部門7,584人の減、無料部門11,127人の減となった。9、10月の給水管改修工事に伴う、入浴休憩、プールの休業が大きな要因と思われる。地域事情等他の要因も分析し、利用者増につながる各種教室やイベントを企画することが課題である。

スマイルボウリングは人気があり頻繁に行われ、屋内運動広場利用は前年比1,509人の増となった。

世代間交流事業としては、夏・冬の親子チャレンジ教室を実施（40回612人）した。今後も継続したい事業なので、参加率を上げるため、内容の充実とより効果的な広報活動に努める。

○居宅支援センター

1) 指定居宅介護支援事業所については、入居者利用に加えて地域住民の利用も増え、現在の登録者は71人となっている。市町村からの依頼により60件の介護認定の訪問調査を実施した。

延べ利用者数（要介護者722人 要支援者129人 計851人）

2) 指定訪問介護事業所については、平成24年度介護報酬改定により、利用者の住居と同一建物に所在する事業所は一割の減算となった。エリア入居者を中心に、延べ毎月約830人の利用があり、計画的、効率的な運営に努めた。

（訪問介護サービス利用延べ9,909人）

介護関連事業においては、ヘルパー13人体制に対して1月から2人の欠員となっているが、早朝、夜間のサービスの提供を含め、利用者のニーズに対応できるよう努力している。

3) 配食サービスについては、平成21年度より横手市から受諾しているが、利用者の皆さんからは大変好評を得ている。一人暮らしの高齢者の安否確認という目的もあり、重要な事業の一つとなっている。

○入居施設

1) 養護老人ホーム

利用者の平均年齢が81.3歳と高齢化が進み、心身の機能低下が顕著になってきている。また、認知症の方が増えていること等から、一人ひとりに合った個別支援計画の作成と、個々の状況に応じた居住環境の整備、訪問介護、訪問リハビリ等の利用を紹介し、安全な日常生活が送られるよう支援に努めた。

また、夜間および日中においても生活に不安を抱える利用者が多くなっており、訪室等の回数を増やし、生活状況の把握による事故の未然防止と、体調等の変化に速やかに対応することにより、安全な生活の確保に努めた。

日中の活動として、誰でも気軽に参加できるクラブ内容の充実に努めるとともに、居室に閉じこもりがちな利用者については、個別に参加を呼び掛け、必要な利用者には移動支援を行うなど、個別支援の充実と生活リズムを整える等の支援に努めた。「健康体操（24回実施延べ人数449人）」「音楽クラブ（23回実施延べ人数633人）」「ごきげんクラブ（23回実施延べ人数336人）」を開催（延べ実施回数70回、参加延べ人数1,418人）し、昨年度より206人の大幅増となる参加を得た。

訪問介護事業所との連携により各種行事への参加、ショッピング等外出支援を安全に行うことができ、潤いと変化のある生活支援ができた。

保健・医療面では利用者の高齢化に伴い、毎日のバイタルチェックと疾病が重症化しないよう嘱託医と連携し、定期診察、定期健診、医療相談などを行い、利用者の不安解消に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、利用者会議等多くの機会を活用し、注意喚起し、インフルエンザ、ノロウイルスの罹患者が1名ずつ出たものの、他者との接触がないよう居室での対応及び施設内消毒等の対応が迅速であったため、集団感染には至らなかった。

防災については、総合防災訓練で食糧の備蓄、暖房器具・防災グッズ等の運び出しを行うなど備蓄状況を確認し災害時に備えた。また職員の危機意識を高め、非常時に適切に対応するため、日中に夜間勤務体制の避難訓練を実施した。

平成25年3月31日現在 利用者 49名

要介護認定者 27名

要支援認定者 5名

ヘルパー利用 32名

平成24年度 入所者 6名

退所者 7名

(他施設入所4名 長期入院2名 死亡1名)

2) 軽費老人ホーム

利用者の平均年齢が81.0歳であり、高齢化とともに心身の機能低下が著しく、日常生活に不安を抱える利用者が増えている。また、介護度の重度化により対応できなくなった方や亡くなった方の退所が多く、7名の欠員となっている。利用促進として近隣市町村及び包括支援センター等の関係機関や、関東地区大森ふるさと会会員等へ施設の情報を提供するなど、入居者の確保に努めた。

利用者個々のニーズに基づいた個別支援計画を作成するとともに、利用者の状況に応じた介護保険サービスを活用した居住環境の整備や、訪問介護サービス等の利用の紹介により、安全な日常生活が送られるよう支援に努めた。

また、体調不良等により一時的に日常生活に困難が生じた場合、利用者が希望するサービス（特別提供サービス）を有償で提供することにより、施設生活が継続できるよう努めた。

保健面では定期健康診断や健康相談を実施し、協力医療機関との連携により、高齢による疾病の重症化の未然防止と体調把握により不安の解消に努めた。

身体機能の維持については、健康体操や専門講師による「元気ハツラツ教室」を開催し、介護予防についての啓蒙活動に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、談話会等多くの機会を活用し注意喚起した。インフルエンザ等感染症の罹患者はなかった。

平成25年3月31日現在、利用者数43名

(個室4室、2人部屋1室が空室)

要介護認定者	8名
要支援認定者	18名
介護保険サービス利用者	16名
平成24年度 入所者数	4名
退去者数	9名 (他施設 7名、死亡2名)

3) 老人専用マンション

利用者の平均年齢が84.2歳と高齢化し、支援を必要とする利用者が増加傾向にあるため、必要な時に介護サービスを速やかに利用できるよう随時生活相談に応じるとともに、介護保険サービスの情報提供に努めた。また、市町村及び居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等関係機関と連携し、介護サービスの導入と福祉用具の活用等により、生活の質の向上に努めたが、3名が退去(死亡2名)となった。介護保険サービス利用者は5名となり、昨年度比1名の利用減となっている。

利用促進については、近隣市町村及び包括支援センター等の関係機関や、関東地区大森ふるさと会会員等へ施設の情報を提供し、入居者の確保に努めた。

健康面については、随時健康相談等を実施し病気に対する不安の解消に努めるとともに、定期健康診断等による病気の早期発見と、協力医療機関との連携により病気の重症化の回避に努めた。

また、感染症予防として利用者の健康と清潔な生活環境の維持に努めるとともに、インフルエンザの予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、談話会等多くの機会を活用し注意喚起した。インフルエンザ等感染症の罹患者はなかった。

また、心身機能の低下予防として外出援助の機会を増やすとともに、健康体操の実施と地域や当エリアで開催している生きがい・健康づくり活動等への積極的な参加を促し、生きがい活動につなげた。また、マンション独自の新たな活動として「陽だまりタイム」と称し、月2回コーラスを楽しむ時間を設定し交流を図る機会を設けた。

平成25年3月31日現在、	利用者数	17名	(夫婦部屋 3室が空室)
年度内入所者数	0名		
年度内退去者数	3名	(他施設へ1名、死亡2名)	
要介護認定者	3名		
要支援認定者	5名		
介護保険サービス利用者	5名		

○衛生・安全対策

防災関係では、年2回の総合防災訓練を地元消防署の立ち会いのもとに実施し、互助協力体制の必要性と重要性を職員及び入居者がともに確認した。また、常設AEDについては、定期的に点検を実施した。

震災に備え、防災体制等の見直しを行ったほか、電力事情や大規模災害・停電を想定し、食糧の備蓄、暖房機や防寒具、防災グッズ等の在庫確認を行った。

今冬も積雪が多く、職員による雪下ろしや道路の除雪、避難路の確保に努めた。設備関係については、プールや浴場も含めて点検等を怠ることなく、利用者や入居者の安全に配慮した。

○苦情解決処理

要綱に規定する苦情案件は無く、コミュニティセンターにおいては、顧客満足度調査等による意見・要望が13件あり、速やかな回答に努め館内に掲示し周知した。

居宅支援センターにおいては、毎月現任研修を実施し、職員間の連携を強化するとともに、サービスの向上に努めている。また、3月には苦情解決状況報告会を開催し、顧客満足度調査等の結果を報告し、適切な助言を得ることができた。

平成24年度南部老人福祉総合エリア利用状況(前年度比較)

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位:人

区分	年間合計(人)		比較増減	
	平成24年度	平成23年度		
有料	休憩	11,735	12,817	△ 1,082
	宿泊	878	1,303	△ 425
	会議室	622	1,898	△ 1,276
	屋内運動場	6,098	4,589	1,509
	プール	6,172	12,428	△ 6,256
	セット券	666	651	15
	自主事業	5,058	5,127	△ 69
計	31,229	38,813	△ 7,584	
無料	屋内運動場	28,514	34,167	△ 5,653
	各種自主事業等	7,736	9,197	△ 1,461
	その他事業	31,602	34,567	△ 2,965
	視察等	504	1,552	△ 1,048
	計	68,356	79,483	△ 11,127
合計	99,585	118,296	△ 18,711	

2. コミュニティセンター各種自主事業参加状況

※単位:人 ()内は開催回数

区分	区分	平成24年度	平成23年度	比較増減
		趣味活動	有料	お茶会 95 (12)
		華道 107 (12)	105 (11)	2 (1)
		コーラス 69 (12)	90 (12)	△ 21 (0)
		囲碁 251 (42)	290 (53)	△ 39 (△ 11)
		小計 522 (78)	776 (99)	△ 254 (△ 21)
健康づくり活動	有料	太極拳 124 (12)	301 (28)	△ 177 (△ 16)
		水中運動 71 (16)	66 (23)	5 (△ 7)
		ゲートボール 69 (10)	109 (12)	△ 40 (△ 2)
		レクスポ 317 (21)	348 (23)	△ 31 (△ 2)
		卓球 283 (22)	378 (23)	△ 95 (△ 1)
		ヨガ 91 (24)	41 (23)	50 (1)
		ベビースイミング 16 (6)	34 (22)	△ 18 (△ 16)
	水泳教室・各種教室 1,133 (146)	0 (0)	1,133 (146)	
	小計 2,104 (257)	1,277 (154)	827 (103)	
講座・講演	有料	なつメロ 412 (10)	631 (12)	△ 219 (△ 2)
		移動講座 61 (2)	44 (1)	17 (1)
		テーブルコーディネイト 0 (0)	46 (5)	△ 46 (△ 5)
		小計 473 (12)	721 (18)	△ 248 (△ 6)
創作活動	有料	陶芸 919 (149)	168 (24)	751 (125)
		民芸 363 (37)	181 (19)	182 (18)
		木工 55 (21)	38 (12)	17 (9)
		料理 163 (11)	189 (12)	△ 26 (△ 1)
		小計 1,500 (218)	576 (67)	924 (151)
教室合計		4,599 (565)	3,350 (338)	1,249 (227)
各種大会合計		459 (8)	1,777 (9)	△ 1,318 (△ 1)
自主事業(有料)合計		5,058 (573)	5,127 (347)	△ 69 (226)

区分	平成24年度	平成23年度	比較増減
自主事業(無料)			
映写会	1,486 (41)	2,367 (46)	△ 881 (△ 5)
生きがい創作館	2,051	2,225	△ 174
イベント・研修等	4,199	4,605	△ 406
合計	7,736	9,197	△ 1,461
その他事業	生きがい交流広場 1,144	1,060	84
	ふれあいセンター 27,258	30,249	△ 2,991
	西部トレセン 3,200	3,258	△ 58
合計	31,602	34,567	△ 2,965

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位:人

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
コミュニティセンター等の利用者数	132,601	118,663	118,376	118,296	99,585
コミュニティセンター利用者数(横手市除く)	97,854	85,881	86,551	84,789	69,127

その他

区分	平成24年度	平成23年度	比較増減
チャレンジ教室	612	500	112
ポイントカード	168	175	△ 7
無料開放	309 (1)	735 (2)	△ 426 (△ 1)

利用実績状況調

平成25年3月31日現在

【養護老人ホーム】

区分		男女別		合計
		男	女	
市町村				
県内市	横手市	14	32	46
	湯沢市		1	1
	大仙市		1	1
	小計	14	34	48
県内町村	羽後町		1	1
	小計	0	1	1
県外	小計			0
合計		14	35	49

【軽費老人ホーム】

区分		男女別		合計
		男	女	
市町村				
県内市	北秋田市			0
	秋田市		2	2
	横手市	8	9	17
	湯沢市	2	5	7
	大仙市	1	1	2
	仙北市	1		1
	由利本荘市		1	1
	にかほ市		1	1
	小計	12	19	31
	県内町村	美郷町	1	1
羽後町		2	3	5
小計		3	4	7
県外	小計	3	2	5
合計		18	25	43

【老人専用マンション】

区分		男女別		合計
		男	女	
市町村				
県内市	秋田市		1	1
	横手市	1	8	9
	湯沢市	1	1	2
	大仙市		1	1
	由利本荘市		1	1
	小計	2	12	14
県内町村	美郷町		1	1
	羽後町	1	1	2
	小計	1	2	3
県外	小計			0
合計		3	14	17

(4) 秋田県高清水園

○施設運営の概要

1) 利用状況

入所利用については、成人では動きがなかった。昼間サービスである生活介護は定員52名に対し、昨年度並みの63名、自立訓練が定員8名に対し6名の利用があった。日中活動系サービスには通所で11名の利用があった。児童においては、新体制に移行し、経過的生活介護・施設入所支援が各24名、指定障害児入所施設が12名、措置が3名となった。その中で児童女子寮において、グループホームへ1名、ケアホームへ1名がそれぞれ移行、入所が1名という動きがあった。また、養護学校の卒業により、学齢児の在籍率は昨年度より下がっている。尚、待機者登録者数は、昨年度と変わりなく、成人男子24名、成人女子3名、児童男子4名、児童女子0名となっている。

2) 地域生活

課長以下5名の支援体制であったが、相談支援業務の大幅な増加が見込まれ、その充実を図る必要があったことから、年度途中で支援員を1名増員し、1名を相談支援専従として対応した。

グループホーム3棟、ケアホーム2棟と変わりなく、25名の支援を行なった。また、平成25年度にケアホームを立ち上げるため、ケアホーム設立準備委員会を設置し、検討を進めている。

3) 相談支援事業の進捗

前年度10月に県から相談支援事業所の指定を受けて事業を開始し、6ヵ月間で相談支援事業申請者は25名だが、今年度1年間では77件と相談件数が増えている。1名を専従、1名を兼務とする2名体制で相談支援業務に対応してきたが、なかなか業務をこなしきれない状況であり、体制強化が求められる。

4) 経営改善計画の推進

前年度に引き続き経営改善推進委員会を中心に全職員に対し無駄の削減を呼び掛け、光熱水費の削減の意識付けを図り、結果的に削減に結びついている。

児童施設の今後の方向性については、法人全体の課題でもあり、共通認識を持って検討を進めている。ハード面の利用方法が今後の課題となっている。

ケアホーム設立については順調に進んでおり、今後対象者の検討を進めていく。

○施設支援

成人棟の利用状況は、生活介護63名、自立訓練6名、施設入所58名となっている。生活介護に関しては、上限を超える利用状況である。日中活動については週5日、畑作業・環境整備・軽作業・創作（パズル、刺し子）・運動レク等によるグループ活動（6グループ編成）を実施した。活動場所が作業棟になっているグループにおいては、作業棟が別棟のため一度外に出なければならず転倒の危険性が高いことなどから、冬期間の活動が制限された。また、1月には、感染性胃腸炎が集団発生し、長期間活動ができなかった。

児童棟については、栗田養護学校へ15名が就学しており、学級担任との年2回（春、秋）の面談や、必要に応じて適時面談を実施したり、年3回の学校連絡会の実施、スクールバス運行委員会等を通じて連携を図った。また困難なケースについては、児童相談所等を交えてケース検討会を実施した。年齢超過児に対しては成人施設の6グループ活動に参加して日課の活性化を図り、生活環境の改善、広汎性発達障害を持つ利用者に対しては個室の設置等の配慮をした。

児童福祉法の改正により児童施設においては、経過的生活介護・経過施設入所支援（24名）、指定障害児入所施設（12名）、措置（3名）となった。また、将来的な児童施設のあり方について、検討会議を行っている。

ヒヤリ・ハット（事故）報告に関しては、誤薬に関する報告が多いことから、誤薬ゼロ運動を行い、誤薬防止に努めた。飲ませ間違いのアクシデントは起きていないが、飲ませたはずの薬（錠剤）が床に落ちていたという報告が多く、また帰省時の薬の持たせ忘れもあった。いずれも確認不足が原因であり、職員間で再発防止を呼び掛けた。誤薬の他に、利用者同士のトラブルから発生する怪我也多く、利用者の行動把握及び精神安定に向けた取り組みを検討、実施した。

○居宅支援・その他の委託事業

短期入所・日中一時支援事業では、在宅支援の一環として利用を希望する障害児者の積極的な受け入れに努めた。成人の日中一時支援については、昨年度利用が多かった利用者が短期入所利用へ移ったことから、減少している。その分短期入所利用の件数は増えている。児童においては、短期入所利用は横ばい状態であった。日中一時利用は契約件数も増え、利用は30件程増加した。

日中一時支援事業放課後支援型については、利用人数が毎年増えており、現在は19名の利用がある。9月に全保護者に対し、利用に関するアンケートを実施したところ、利用時間延長の要望が多く出されたため、検討した結果、平成25年度4月から30分延長することにした。

共同生活援助事業については、男子1棟、女子2棟の合計3棟を運営しており、日中活動として就労7名、就労継続支援B型事業所利用等を含めて14名が地域生活をしている。

共同生活介護事業では、男子1棟、女子1棟の合計2棟11名で運営している。平成25年秋頃をめぐり女子のケアホームを開設する予定であり、設立準備委員

会を立ち上げて開設に向けて取り組んでいる。

また、防災対策として、消防署と連絡を取り合い全室への火災警報器の設置、冬期間の暖房器具の定期点検の実施、地域住民参加の避難訓練を実施して防災対策に努めた。

(平成25年3月31日現在)

事業名		男	女	合計
地域生活支援事業				
短期入所		122名	10名	132名
日中一時支援		132名	73名	205名
共同生活援助事業 (GH)		5名	9名	14名
共同生活介護事業 (CH)		6名	5名	11名
相談支援事業		38名	39名	77名
その他委託事業				
養護学校児童生徒放課後生活支援事業		1,903名	169名	2,072名

共同生活援助事業、共同生活介護事業（入居者数）以外については、延べ人数

○健康管理

感染症の流行期に入る前に看護師による研修会や、市の保健所から講師を招いての研修会を実施し、園内の衛生管理に努めるとともに、園内に入る人に対しての消毒やマスクの着用を呼びかけ、園内への菌の流入防止に努めた。しかし、1月上旬から下旬にかけて、サポウイルスによる感染性胃腸炎が集団発生し、秋田市保健所の立ち入り指導を受けた。感染力が弱く大事には至らなかったが、期間が長くかかり、感染症対応を解除するまで時間がかかった。インフルエンザは、3名の罹患はあったものの、集団発生には至らなかった。

○地域交流・社会参加

園行事（運動会・夏祭り・個人）には、ボランティア47名を受け入れた。以前に比べ、応募が少ない状況ではあるが、ボランティアセンターや短大・専門学校へ依頼し、学生を中心に人数を確保した。

また実習生は、依頼11校、人数34名、延べ日数218日という実績であり、昨年と比べ、少しではあるが増えている。

地域との交流に関しては、恒例となっていた上北手小学校との秋田露の刈り取り交流会は、秋田露がネズミによる食害にあったため、今年度は中止となった。ただ、元仁井田秋田露の会の方のご厚意により、小学校への鉢植えの寄贈は続けることができた。上北手地区レクリエーション大会へは例年どおり参加し、地域の方々と交流を深めた。施設機能の提供についても、グラウンド、体育館の利用

があり、体育館においては、スポーツ少年団（ミニバスケットボール）からの依頼が多く、幅広く提供した。

○苦情解決処理

苦情受付件数は5件で、その内3件はサービスの質に関するものであり、職員の対応の見直しを図り、その内容を部署で周知し、家族へ説明して同意を得ている。他の2件については、近隣の方々からのグループホームの生活に係る苦情であったが、それぞれ即時の対応と謝罪で改善を図り、了解を得ている。

また、毎月実施している「なんでも相談」も前年に引き続き実施し、利用者から14件の相談があった。内容は質問や要望がほとんどであったが、利用者が自分の意見が言える場として、今後も継続して行くこととする。

市 町 村 別 利 用 状 況

平成25年3月31日

【施設入所:成人】定員60名

市町村	区分	男女別		合計	
		男	女		
県内市	秋田市	18	12	30	
	北秋田市	0	0	0	
	潟上市	3	1	4	
	能代市	1	0	1	
	横手市	1	0	1	
	大館市	0	0	0	
	由利本荘市	3	1	4	
	男鹿市	3	1	4	
	大仙市	2	2	4	
	湯沢市	1	0	1	
	仙北市	1	3	4	
	小計	33	20	53	
	県内町村	五城目町	0	1	1
		八郎潟町	1	0	1
美郷町		1	1	2	
八峰町		0	1	1	
小計		2	3	5	
県外		0	0	0	
	小計	0	0	0	
合計		35	23	58	

【施設入所:児童】定員40名

市町村	区分	男女別		合計	
		男	女		
県内市	秋田市	17	9	26	
	北秋田市	0	0	0	
	潟上市	2	0	2	
	能代市	0	1	1	
	横手市	0	0	0	
	大館市	0	0	0	
	由利本荘市	2	1	3	
	男鹿市	1	2	3	
	大仙市	2	1	3	
	湯沢市	0	0	0	
	仙北市	1	0	1	
	小計	25	14	39	
	県内町村		0	0	0
			0	0	0
		0	0	0	
小計		0	0	0	
県外			0	0	0
	小計	0	0	0	
合計		25	14	39	

【通所利用者】

区分	男	女	計
生活介護	4	4	8
生活訓練	2	2	4
合計	6	6	12

※児童施設の就学児数

学年	男	女	計
小学部	0	0	0
中学部	0	2	2
高等部	9	4	13
合計	9	6	15

通学校: 栗田養護学校

【グループホーム:定員14名/ケアホーム:定員11名】

市町村	結 (GH)	みのり (GH)	さくら (GH)	あおぞら (CH)	彩 (CH)	計
	女	男	女	男	女	
秋田市	2		1	2	4	9
由利本荘市			2		1	3
男鹿市	1	2				3
仙北市				2		2
大仙市				1		1
横手市			1			1
潟上市		1				1
美郷町	2					2
五城目町				1		1
井川町		2				2
合計	5	5	4	6	5	25

(5) 秋田県心身障害者コロニー

○施設運営の概要

1) 利用状況

入所利用については、退所者21名（グループホーム・ケアホームへ10名、他施設移行1名、死亡10名）に対し、新規入所者6名であった。生活介護、自立（生活）訓練、就労継続支援B型事業の通所利用者は合わせて65名で、そのうち新規利用者が4名となっている。

2) 地域生活支援

新規にケアホーム2棟を立ち上げ、現在グループホーム・ケアホーム併せて15棟72名（定員）の利用者が地域で暮らしている。

地域支援課（サポートセンター）を中心とした支援体制を構築し、支援の一元化、効率化を図っている。特に夜間支援については、宿直員の配置（ケアホーム8か所）やホームセキュリティの業務委託（グループホーム7か所）、夜間のホーム巡回、携帯電話の24時間対応等で安心・安全の確保に努めた。

3) 就労支援

就労継続支援B型事業では、製パン、木工、窯業、園芸、果樹（畜産含む）の作業種目で事業を展開した。

製パンでは、入所利用者の地域移行に伴い給食への納入は5%ほど減収になったが、販売先を新たに開拓したことで大幅な減収には至らなかった。

木工では、スノーポールの発注を県地域振興局等より受け、昨年度より1.5倍強の15,175本を納品することができた。

園芸では、4月3日の暴風被害を受けた花苗の生産に大きな影響を及ぼした。果樹では、リンゴが9月以降の天候不順で熟期が遅れた影響で収穫時期にも遅れが生じた。

目標工賃達成に向け販売促進に努めた結果、利用者一人あたりの月額平均工賃は、昨年の14,676円を上回る15,833円であった。

4) 高齢化への対応

高齢化対策検討委員会では定期的に高齢化実態調査を実施している。3月31日現在の高齢化率（65歳以上）は、47.7%で昨年より4ポイントアップした。

介護予防の取り組みとして、運動プログラムの活用による転倒防止や除圧マットの導入による褥瘡予防など高齢化対策を実施した。特に、転倒件数については昨年度より11件減少した。

今年度診療所において、高齢に伴う肺炎や老衰等により看取った利用者は6名であった。

5) 経営改善計画の推進

毎月の委員会をとおして、取り組みの進捗状況を全職員に周知し、経営改善の推進を図った。サービス利用の向上については、利用者アンケートを実施し、結果の分析から課題を設け、改善に向け全課で取り組んだ。

○施設支援

平成24年度末の利用者は、生活介護421名、就労継続支援B型61名、自立(生活)訓練6名、施設入所支援418名である。

サービス向上に資するため、昨年度に引き続き利用者の生活満足度調査を実施し、結果の集計・分析・課題解決への取り組み等を行った。

○居宅支援・その他の受託事業

施設入所者の地域移行希望等についてのアンケート調査を行い、希望する利用者には就労継続支援B型事業や生活訓練等の見学や体験を実施し、地域移行への意識を高めた。

由利本荘・にかほ圏域の在宅障害児(者)の知的障害者短期入所事業、日中一時支援事業の利用延人数は571名であった。

障害児(者)地域療育支援事業では、由利本荘市・にかほ市の子育て支援担当課と連携を図りながら、療育技術指導等を実施した。相談支援事業については、地域で生活する障害者や家族に対し、相談支援専門員が訪問し、障害福祉サービスの連絡・調整やサービス等利用計画の作成を実施した。

障害者就労・生活支援センター事業では、地域在住の障害者の就労支援、生活支援を実施し、月平均190件ほどの相談を受けている。今年度は12名の就労をサポートすることができた。

また、由利本荘市障害者自立支援協議会の委員として会議等に積極的に参加し、他サービス機関との連携を図った。

(平成25年3月31日現在)

事業名	男	女	計
地域生活支援事業			
短期入所事業(者)	253名	93名	346名
短期入所事業(児)	22名	0名	22名
日中一時支援事業	181名	22名	203名
共同生活援助事業(GH)	22名	11名	33名
共同生活介護事業(CH)	19名	18名	37名

その他の委託事業	件数	登録者数
障害児(者)地域療育支援事業	105件	—
障害者相談支援事業(由利本荘市)	1,765件	—
障害者就業・生活支援センター事業	2,267件	129名

共同生活援助事業、共同生活介護事業(入居者数)以外については、延人数

○健康管理

診療所を中心に、診療や検診による疾病の早期発見、早期治療に努めた。インフルエンザワクチンや種々の感染症対策を行ったが、赤光支援課すみれ寮で、1月にノロウイルスによる胃腸炎が集団発生し、保健所に届け出た。その後、創生支援課でノロウイルスによる胃腸炎とインフルエンザが同時に発生した。診療所医師の適切な処理と感染症マニュアルに沿った対応により、いずれも重篤者はいなかった。また、体温調節が困難で低体温や熱中症を起こすケースが増加していることから、エアコンの未設置箇所の解消等住環境整備が必要である。

○地域交流・社会参加

主要行事であるコロニー祭、夏祭りに地域婦人会や老人クラブ、高校生ボランティア120名を受け入れた。また、各支援課独自で日中活動にボランティアを依頼し、59名を受け入れた。他にも団体や個人からの申し込みもあり29名を受け入れた。実習・研修では、18件延べ120名の学生を受け入れた。

地域住民への施設機能の提供としては、体育館217件、延べ662名の利用があった。

○苦情解決

今年度の苦情受付総件数は12件で、利用者本人からの申出が2件、家族からの申出が7件、その他が3件であった。3月に、第三者委員へ処理状況を報告し、助言を得た。

【利用者の状況】

○出身市町村

【施設入所】

市町村		男 女 別		計
		男	女	
県 内 市 町 村	秋田市	38	34	72
	北秋田市	0	1	1
	潟上市	6	2	8
	能代市	11	11	22
	横手市	22	27	49
	大館市	1	1	2
	由利本荘市	57	53	110
	男鹿市	11	8	19
	湯沢市	7	8	15
	大仙市	22	12	34
	仙北市	7	3	10
	にかほ市	14	16	30
	藤里町	1	1	2
	三種町	3	6	9
	五城目町	2	1	3
	八郎潟町	1	1	2
	井川町	1	1	2
	美郷町	6	6	12
	羽後町	3	6	9
	東成瀬村	2	1	3
小計		215	199	414

平成25年3月31日現在

市町村		男 女 別		計
		男	女	
県 外	川口市	1		1
	秦野市		1	1
	柏市	1		1
	足立区	1		1
小計		3	1	4

	男 女 別		計
	男	女	
合 計	218	200	418

【共同生活援助】

市町村	GH	わかまつ	やすらぎ	そよかぜ	わかば	しおさい	はまなす	まつかぜ	計
		男	男	女	女	女	男	男	
秋田市				1	1	1	1		4
北秋田市									
潟上市									
能代市								2	2
横手市		1	1				1		3
大館市									
由利本荘市		3	1	1	1	1		1	8
男鹿市			1			1			2
湯沢市		1	1			1	1	1	5
大仙市			1						1
仙北市				1					1
にかほ市		1							1
藤里町									
三種町									
五城目町			1	1					2
八郎潟町									
井川町									
美郷町					2		1	2	5
羽後町									
東成瀬村									
合 計		6	6	4	4	4	4	6	34

【共同生活介護】

市町村	CH	あおぞら	お月森	やまと	なでしこA	なでしこB	ひだまり	かもめ	はまやま	計
		男	男	男	女	女	女	男	男	
秋田市				2	1				1	4
北秋田市										
潟上市						1				1
能代市		1		1						2
横手市							1		2	3
大館市										
由利本荘市		2	2		2	2	3	3	1	15
男鹿市			1							1
湯沢市			2	1						3
大仙市						1	1	2	1	5
仙北市										
にかほ市		1								1
藤里町										
三種町										
五城目町					1	1				2
八郎潟町										
井川町										
美郷町										
羽後町										
東成瀬村										
合 計		4	5	4	4	5	5	5	5	37

【診療所】

		年度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度
医 科	診療日数		242日	243日	242日	241日
	受診者数		5,239人	5,201人	5,142人	5,011人
	延べ 利用者 数	入所者	17,715人	18,560人	17,660人	15,398人
		その他	357人	387人	427人	497人
		計	18,072人	18,947人	18,087人	15,895人
歯 科	診療日数		87日	82日	78日	76日
	受診者数		493人	471人	444人	404人
	延べ 利用者 数	入所者	924人	857人	835人	690人
		その他	14人	19人	3人	3人
		計	938人	876人	838人	693人
計	診療日数		329日	325日	320日	317日
	受診者数		5,732人	5,672人	5,586人	5,415人
	延べ 利用者 数	入所者	18,639人	19,417人	18,495人	16,088人
		その他	371人	406人	430人	500人
		計	19,010人	19,823人	18,925人	16,588人

(6) 地域生活支援センターみずばやし

○施設運営の概要

1) 利用状況

平成24年度は、宿泊型自立訓練（定員10名）とグループホーム（6棟・定員28名）、ケアホーム（4棟・定員20名）はすべて定員を満たした。日中活動サービスの就労継続支援B型事業（1日の利用定員14名）については、登録者24名で昨年度より3名増加したが、夏季から年末にかけての利用が低く、年間平均利用率は約80%にとどまった。自立訓練（生活訓練）（1日の利用定員6名）については、登録者6名（昨年度2名）のうち長期入院者や他施設等との併用利用者がいたため年間平均利用率は約40%と低かった。その中で、車輻による利用送迎を本格的に開始した年度末、特に3月の利用は就労継続支援B型事業で98%、生活訓練57%と大幅に増えた。相談支援事業は、サービス利用計画作成が40件、モニタリングは47件であった。

2) 地域生活支援

グループホーム、ケアホーム利用者の地域生活の継続支援とともに、特に高齢のケアホーム利用者には健康管理や疾病管理を重点に手厚い支援を行った。建物の老朽化によりケアホーム1棟を比較的新しい住居に移し、生活環境の改善を行った。その他、過去に通勤寮やグループホームを退居（寮）シアパートで自立生活している9名の相談・支援も引き続き行った。また、地域生活支援総合センター（仮称）の設置に向け、候補地等の検討会を実施した。

3) 就労支援

宿泊型自立訓練利用者の雇用事業所と連絡調整を密にし、職場定着支援を行った。就労継続支援B型事業においては、ネーム刺繍を主な作業種目とし、委託作業の開拓にも努め、灯籠・箸入れ・おみくじ作りを新たに加えた。前年度の弱電作業は難易度が高く年度途中で終了し、シール貼りも夏以降委託が皆無となったが、平均月額支給工賃は5,300円となり、昨年度より、約70%の増額となった。今後も作業効率を高め、通年の委託作業種目を増やし、作業の確保と増収を図りたい。また、コロニーの障害者就業・生活支援センター等と連携し支援した結果、地域から通っている就労継続支援B型事業利用者のうち4人が一般就労に結びついた。

4) 経営改善計画の推進

経営改善計画に職員一丸となって取り組んだ。職員会議等で光熱水費の使用状況等の周知を図り、情報を共有することで経費の削減に努めた。年度末から本格的に送迎車輻による利用者送迎を開始した結果、利用増による増収となった。

○施設支援

宿泊型自立訓練利用者を中心に自立した生活を送れるよう、職場定着、対人関係、金銭管理、健康管理、福祉サービスの利用等社会資源の活用に関する支援を行った。また、将来の地域生活移行に向けたアンケートを実施し、今後必要な環境整備や支援内容の把握に努めた。

○健康管理

毎朝の体調把握や定期健康診断等の他、宿泊型自立訓練利用者とグループホーム利用者が地域の医療機関で「人間ドック」を利用するなど健康管理に努めた。ノロウイルスやインフルエンザ等感染症対策として、予防接種の奨励、手洗い・うがいを励行した。グループホームではインフルエンザの発生があったものの、適切な対応により拡大を防ぐことができた。また冬期間、毎日施設の次亜塩素酸消毒を行ない、ノロウイルス対策に努めた。コロニーが主催した健康管理に関する2つの研修に准職員、世話人延べ5名を派遣し、施設及びグループホーム・ケアホームにおける健康管理に関するスキルアップを図った。

○地域交流・社会参加

町内会主催の運動会・盆踊り大会、市主催のクリーンアップ・一斉清掃デー等への参加など積極的な地域交流・社会参加に努めた。また、地域社会福祉協議会にボランティア登録し、3月8日、職員2名と利用者4名が、他の登録者と一緒に高齢者世帯の除雪作業のボランティア活動を行なった。

○苦情解決

施設内に苦情受付箱を設置するなど、利用者等が苦情を出しやすい環境づくりに努めた。苦情申し立ては、1グループホームの近隣住民から3件あり、いずれも利用者の早朝の除雪作業や話し声等、騒音に関するものであった。住民へ謝罪し、利用者に声の大きさ等に注意するよう指導して円満に解決した。また、苦情内容等については、3月25日に第三者委員を招いて報告会を行った。

○利用者の状況（平成25年3月31日現在）

1. 宿泊型自立訓練利用者利用状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	0	1
由利本荘市	7	0	7
大仙市	1	0	1
美郷町	1	0	1
計	10	0	10

2. 日中活動サービス（就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練））
利用（登録）状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	1	2
由利本荘市	12	5	17
にかほ市	2	0	2
湯沢市	1	0	1
能代市	1	0	1
横手市	1	0	1
大潟村	1	0	1
美郷町	2	1	3
五城目町	0	1	1
平塚市	0	1	1
計	21	9	30

3. グループホーム・ケアホーム利用状況

援護の 実施者	グループホーム						ケアホーム				計		
	翼	清 和	め ぐ み	そ ら	朋	虹	三 愛 A	三 愛 B	菖 蒲	若 菜			
	男	男	女	男	男	女	男	男	男	女	男	女	合計
秋田市	0	1	2	0	1	1	0	1	0	0	3	3	6
横手市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2
由利本荘市	1	3	1	1	0	2	2	0	2	2	9	5	14
男鹿市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
湯沢市	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	4	0	4
大仙市	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	3
大館市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
大潟村	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2
にかほ市	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	6	0	6
羽後町	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2
美郷町	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	1	4
五城目町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
潟上市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
平塚市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	4	5	5	5	5	4	5	5	5	5	34	14	48

(7) 秋田県阿桜園

○施設運営の概要

1) 利用状況

施設入所については、成人で2名が退所（病死）し、2名が入所となる。生活介護が、成人入所者64名全員と通所利用者6名の70名であり、生活訓練は通所で1名利用しているが、今年度で期間終了となる。

児童施設では、1名が家庭復帰で退所となり新規の入所児童はなかった。

2) 地域生活移行

平成25年4月にケアホーム（男子）の開所に向け、児童在籍の成人利用者に地域生活移行ニーズを調査し、移行可能な利用者のリストアップなどを行った。物件そのものの確保が困難なことや建築基準適合などの課題があるが、引き続き開所に向け準備する。

児童施設では、高等部卒業予定の女子を対象に一般就労に向けた自活訓練事業による訓練を実施した結果、1名が老人福祉施設に就労することができた。

3) 就労支援

グループホーム男子入居者2名の就労支援として、ハローワークや関係機関への働きかけや生活訓練による支援の結果、2名が一般企業に就労することができた。

4) 経営改善計画の推進

各種事業の利用促進により収入拡大を目指したが、疾病退所などから入所者増とはならず、結果的に減収になった。通所事業（重症心身障害児者）においても、県からの委託事業として定額の委託費から実績払の事業となったことから大幅な減収となった。

また、障害児入所施設の運営形態の見直しについては、18歳以上の利用者の区分認定調査や新体系事業の申請手続きなどを実施し、地域生活移行に向けた準備に取り組んだ。

○施設支援

支援課成人棟利用者の状況は、生活介護70名、生活訓練1名、施設入所支援64名である。

児童福祉法の改正により児童棟においては、18歳以上の利用者36名が経過的な生活介護と経過的施設入所支援の対象となる。就学児童生徒は9名で、うち高等部の3名が卒業したので、平成25年度は6名となる。児童施設への入所促進に努めたが新たな入所児童はいなかった。

1 1月には浴室改修工事と車椅子用特殊浴槽を設置し、高齢者や車椅子利用者の入浴サービスの向上を図った。

○居宅支援・その他の委託事業

日中一時支援・短期入所事業では、土・日や休日の利用が多く、個別対応のケースが殆どである。

共同生活援助事業については、就労3名、就労継続支援B型5名が通所利用している。65歳以上の男子2名は高齢化による疾病や物忘れなどで支援が必要な状況になってきている。共同生活介護事業は、女子5名が日中活動で生活介護事業を利用している。また、世話人連絡会を毎月1回開催し入居者支援の連携に努めた。

重症心身障害児（者）通園事業は、制度の改正に伴い、生活介護（18歳以上）、放課後等ディサービス事業、児童発達支援事業の3事業に移行となり、新たに契約を結んだ。利用定員5名に対し平均3.8名の利用で、昨年度実績を下回った。また、利用料の1割負担が発生したことから利用を控えるケースも見られた。

障害児等療育支援事業については、訪問療育は129件、外来療育は572件、療育技術指導は23件であった。

横手市からの委託事業である地域生活支援事業（相談業務）も定額から実績報酬となり、約150万円の収入減となった。

養護学校児童生徒放課後生活支援事業は、児童生徒6名を対象に阿桜園で実施した。

（平成25年3月31日現在）

事業名		男	女	計	
地域生活支援事業					
	短期入所事業	21	24	45	
	日中一時支援事業	148	71	219	
	共同生活介護事業(CH)		5	5	
	共同生活援助事業(GH)	8		8	
その他の委託事業					
	重症心身障害者（生活介護）	541（9）	425（5）	966	
	放課後等ディサービス	47（4）	13（2）	60	
	児童発達支援	27（1）		27	
	障害児等療育支援事業	552	149	701	
	相談支援事業	計画相談（横手市）	64	60	124
		基本相談	125	56	181
	養護学校児童生徒放課後生活支援事業	541（4）	302（2）	843	

* 共同生活援助・介護事業以外は延べ人数で表記、（ ）内は登録者数

○健康管理

嘱託医や各医療機関との連携を図り、利用者の健康管理に努めた。

通院関係は、通院延べ人数 1, 255 名（昨年度比 29 名増）、救急受診者 20 名（昨年度比 2 名増）、付き添い職員数 835 名（昨年度比 9 名減）と増加している。また、入院は 6 名（昨年度 12 名）述べ入院日数 122 日（昨年度比 220 日減）と大きく減少した。

グループホーム・ケアホーム入居者の疾病通院が増えてきており、高齢重度化による付添い支援の頻度が増加している。

インフルエンザ等が少数発生したものの、感染症対策の研修やマニュアルに沿った対応を早期に実施した結果、集団発生を防ぐことができた。

○地域交流・社会参加について

利用者のご家族や地域住民を招いて利用者と楽しむ機会として、園の夏祭り（140 名）、園祭（160 名）を開催したほか、ボランティアとの花植えや餅つき、吹奏楽演奏を実施するなど、地域住民との交流を図ることができた。

利用者主体の地域奉仕活動として年 3 回を目安に行ってきた横手駅前の清掃活動は、駅舎の改修工事のため 2 回しか実施できなかった。

○苦情解決処理について

苦情受付件数は 4 件(家族)で、内容は全てサービスの質に関するものであり、職員間で対応について検討をし、保護者へ説明した。うち 3 件は理解していただけだが、1 件については解決に至っていない。

利用者から相談を聴く場として、「何でも相談日」を毎月 1 回実施しニーズを把握している。

年 2 回、第三者委員への苦情報告会を開催し、状況報告と助言を得る場を設けている。

利 用 実 施 状 況 調

平成25年3月31日現在

【施設入所：成人】

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県 内 市	横手市	19	10	29
	湯沢市	5	3	8
	大仙市	8	6	14
	仙北市	4	3	7
	小計	36	22	58
県 内 町 村	羽後町	1	1	2
	美郷町	3		3
	小計	4	1	5
県 外	足立区		1	1
	小計		1	1
合 計		40	24	64

【施設入所：児童】

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県 内 市	横手市	16	4	20
	湯沢市	5	2	7
	大仙市	7	1	8
	仙北市	2		2
	潟上市		1	1
	由利本荘市	1		1
	小計	31	8	39
県 内 町 村	羽後町	2		2
	美郷町	1	1	2
	東成瀬村	1		1
	小計	4	1	5
県 外				
	小計			
合 計		35	9	44

【グループホーム】

市 町 村	希望	あさひ	計
	男	男	
横手市	2	1	3
湯沢市		1	1
由利本荘市	1		1
大仙市		1	1
美郷町	1	1	2
合 計			8

【ケアホーム】

市 町 村	女	計
横手市	1	1
大仙市	2	2
秋田市	1	1
羽後町	1	1
合 計		5

(8) やまばと園

○施設運営の概要

1) 利用状況

成人の入所利用（定員50名）については、1名欠員であったが、8月に女子1名が入所したことにより定員どおりとなる。

児童部門では、昨年10月より自活訓練していた1名がケアホームに移行し、1名が3月に退所したため、2名の欠員となり8名となった。相談支援事業及び特別支援学校や市町村担当課などの関係機関等からの情報収集や施設のPR活動を行っているが、新たな利用者はいなかった。

在宅（CH含む）からの日中活動利用者は、2月までは14名だったが、3月に他事業所へ2名移行したため12名となった。

2) 地域生活移行

男子ケアホームで、7月末に1名家庭復帰し減となったものの、10月に施設を退所して就労した1名がケアホームに入居したため、5名の定員を充している。8月から男子ケアホームに宿直員を配置し支援体制を充実させた。

また、平成26年度のケアホーム増設に向けて物件を探しているが、建築基準を満たす物件が見つからず苦慮している状態である。

3) 就労支援

稲川養護学校と連携して、高等部1名の就労に向け職場実習を計画的に実施した結果、湯沢市内の老人施設の職員として雇用された。また、同じく高等部1名が当園の就労継続事業B型を利用することとなったほか、自活訓練していた利用者がケアホームを利用しながら就労継続支援事業B型を利用することとなった。なお、これまで就労継続支援事業B型を利用していた2名が他事業所の就労支援A型とB型を利用することとなったため、当園の利用者数に増減はない。

以前より一般就労していた2名については、定期的に職場訪問を行っており、職場の雰囲気にも馴染み、元気に仕事をしていることを確認した。

4) 経営改善計画の推進

財政基盤の強化として、引き続き日中活動事業の利用者の受け入れ促進を継続している。また、猛暑・大雪の1年であったが、利用サービスに支障がない範囲内で経費節減に努めた。

また、公用車両を更新し送迎サービス等を充実させるとともに、利用者の外出機会を増やすことができた。

○施設支援

施設入所支援50名、生活介護49名（うち在宅4名、CH1名）、生活訓練は6名（うち在宅1名）、就労継続支援B型7名（うち在宅1名、CH5名）が利用している。

施設入所支援では、55歳以上の中高年層で身体機能の低下による車イスの使用など、より介護を要する利用者が増加しており、生活介護においても利用者の高齢化等に伴う重度化が見られるなど、支援内容の見直しが今後の課題となっている。

このため、今年度は和式トイレから洋式トイレに改修するなど、設備面で利用者に配慮した環境を整えた。

生活訓練は5名増えて6名となった。就労継続支援B型事業では利用者が4名増えて7名となったことにより、平均工賃は4,260円と逆に下がり、目標の6,000円を支給することができなかった。しかし、石鹼製品の販路拡大を目指し、他施設の行事や地域イベントへ積極的に出店し、実演販売を行うなど収益アップとPR活動に努めた。

児童部門の就学児7名に対しては、養護学校との連携を図り、様々な活動を通して基本的な生活習慣及び社会性の向上に努めた。

○居宅支援・その他の委託事業

平成24年度も継続して湯沢市、羽後町の相談支援事業と湯沢市、羽後町、横手市の日中一時支援事業を受託し、地域における在宅支援の積極的な受け入れに努めた。

短期入所・日中一時支援事業の利用では、個別対応を必要とする利用者が増加し、居室の確保や職員配置の調整を要するなど課題もみられた。

相談支援事業については、計画相談が新たな業務となったため、前年度より62件の増となった。

いずれのサービスにおいても関係機関等との調整を図りながら、利用者ニーズに沿ったサービスを目指し、柔軟な対応に努めた。

(平成25年3月31日現在)

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業	67件	57件	124件
	日中一時支援事業	324件	21件	345件
	共同生活介護事業	5人	5人	10人
	相談支援事業	614件	89件	703件
その他の委託事業				
	障害児等療育支援事業	357件	173件	530件
	養護学校児童生徒放課後生活支援事業	785件	609件	1,394件

*共同生活介護事業以外は延べ件数

○健康管理

嘱託医による内科検診や医療相談、医療機関での利用者の定期受診及び職員健康診断等の実施により、利用者と職員の健康管理に努めた。12月に感染性胃腸炎の集団感染（41名）、3月にインフルエンザの集団感染（30名）が発生したが、感染症対応マニュアルに則り、的確に対処した結果、重篤者はいなかった。今後も感染症防止マニュアルを再確認し、利用者の受入時の健康チェック等を徹底することを全職員で確認した。

○地域交流・社会参加

園行事等には地域住民41人、ボランティア37人の参加を得たほか、天理教ボランティアとの花植え、栗拾い招待など地域住民との交流が継続された。また、湯沢市社会福祉協議会が運営する地域憩いの場の喫茶コーナーには利用者が給仕として参加し、地域住民と交流する機会となっている。社会貢献として、冬期間の除雪ボランティアの登録や、稲川養護学校の環境美化運動に参加した。

実習面では、短大・専門学校など5校8名の学生を受け入れ、今後の福祉従事者の育成に努めたほか、湯沢市の市民後見人養成体験実習を受け入れた。

○苦情解決処理

苦情申し出件数は4件で、いずれもサービスに関する事であった。苦情委員会で内容を調査の上、申し出者へ回答し了解を得ることができた。3月には、第三者委員への報告会を開催し、助言をいただいた。

また、利用者からの何でも聞きます会を毎月1回開催し、利用者のニーズ把握と支援内容の改善に努めた。

利 用 実 施 状 況 調

平成25年3月31日現在

【施設入所：成人施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内市町村	秋田市		1	1
	北秋田市	1		1
	潟上市			0
	能代市			0
	横手市	5	3	8
	大館市			0
	由利本荘市	2		2
	男鹿市			0
	湯沢市	14	5	19
	大仙市	1		1
	にかほ市			0
	鷹巣町			0
	美郷町	1		1
	羽後町	5	8	13
	東成瀬村		1	1
	県外	横浜市		1
伊東市		1		1
八王子市			1	1
合 計		30	20	50

【施設入所：児童施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内市町村	秋田市			0
	北秋田市			0
	潟上市			0
	能代市			0
	横手市	1		1
	大館市			0
	由利本荘市			0
	男鹿市			0
	湯沢市	3	1	4
	大仙市	1		1
	にかほ市		1	1
	鷹巣町			0
	美郷町			0
	羽後町	1		1
	東成瀬村			0
	県外	横浜市		
伊東市				0
八王子市				0
合 計		6	2	8

【共同生活介護（ケアホーム）】

市町村		区分		計
		バッテリー	のどか	
	由利本荘市		1	1
	湯沢市	3	2	5
	にかほ市	1		1
	美郷町		1	1
	羽後町	1	1	2
合 計		5	5	10

(9) 秋田県身体障害者更生訓練センター

○施設運営の概要

1) 利用状況

今年度、利用者のニーズを基に就労継続支援B型事業を廃止し、新たに生活介護事業を開始して利用の促進に努めた。

その結果、施設入所支援では新規利用者19（延べ25）名、終了者18（延べ23）名、また通所利用については新規利用者が14名、終了者が9名となり、いずれも昨年度より利用者数が増加した。

こうした中、施設本来の目的である地域移行についても積極的に取り組んでおり、終了者数は就労B施設への移行者を含め、前年度より5名多い30名となっている。

2) 経営改善計画の推進

利用促進とサービス内容変更のPRも兼ね、県内各市町村の福祉担当課、福祉事務所、病院や地域包括センター等、43箇所を訪問した。その結果、利用者数が52名と経営改善計画で設定した利用者数（55名）に近づいて来ている。引き続き関係機関等の訪問や連絡を密にし、利用者の確保に努める必要がある。

光熱水費については、利用者の健康に配慮しつつ、エアコンの稼働時間や設定温度の見直し、扇風機の活用、蛍光灯の本数を減らす等の工夫をしたが、猛暑等により2パーセント程の節約に留まった。

○施設支援

1) 自立（機能）訓練（定員30名）

嘱託医の処方及び支援計画検討会を定期的を実施し、理学療法及び作業療法を中心としたリハビリテーションを実施した。

年間の利用実績は一日平均30.6名となっている。

2) 生活介護（定員40名）

今年度から新たにスタートしたが、就労継続支援B型からの移行者が多いことを考慮して、生産活動と創作活動の二本立てでスタートした。創作活動では、パズル、貼り絵、塗り絵、刺し子、ボルトやボールペンの組立を実施した。また生産活動では、フルーツキャップ、カプセル、箸入れ、箱折り作業を実施して、生産活動参加者には収入を工賃として還元した。

年間の利用実績は一日平均28.4名となっている。

3) 施設入所支援（定員60名）

入所の新規利用件数は19件、終了者数は16名であり、年度当初49名の利

用であったが、年度末では52名の利用と差し引きでは微増である。

年間の利用実績は一日平均46.1名となっている。

4) 通所支援

通所利用者が増加傾向にあり（年間5名増の現在25名）、施設入所支援を終了した4名も通所利用を開始している。ニーズに応えるべく、送迎を年度の途中から3便体制とし利用促進を図った。しかし、今冬は豪雪のため道路事情悪化による渋滞等あり、送迎サービスのあり方が課題となった。

3月には、助成申請していた福祉車輛が日本財団より寄贈され、これにより送迎サービスの体制はより充実した。

5) 相談支援

今年度から指定相談事業所を立ち上げ、相談支援専門員による相談及びモニタリングを実施している。相談支援48件、モニタリング回数86件と、地域のニーズに十分貢献することが出来た。

○居宅支援・その他の委託事業

2名の方がアパート生活を始め、利用に当たっては住宅地の状況等利便性を本人とともに検証したり、利用可能なサービスの申請等についてアドバイスするなどした。

また、家庭復帰を希望された方については、復帰後に利用出来るサービスの紹介や、制度についてアドバイスするなど、地域移行に向けての意欲の向上を図った。

委託事業としては、秋田市と由利本荘市から短期入所支援の委託を受けているが、年間の利用実績は延べ4件であった。

○健康管理

通院回数については、年間延人数895人と昨年度より200人近く減少しているが、複数の診療科への受診者が昨年度同様に増えており、ほぼ毎日のように付添支援が必要な状況にあった。入院者は年間で10名であった。

11月にインフルエンザHAワクチン接種を66名の方が実施し、施設内の感染症予防に努めた結果、通所利用している1名の方のインフルエンザ発症にとどめることができた。

また、栄養ケア・マネジメントとして食事提供面からの健康チェック及び利用者全員を対象とした摂食・嚥下調査を実施し、その結果を基に、受診相談、嚥下体操を実施してヘルスケアサービスの更なる充実に努めた。

○地域交流・社会参加

実習生の受入れは6回、14名、ボランティア活動については3回、30名の方に来ていただいた。実習生については減少しているものの、今後も受け入れは継続することとしたい。また、ボランティア件数は前年度と変わりなかったが、これについても継続していくこととする。

○苦情解決処理

苦情受付件数は年間7件（上半期5件、下半期2件）あり、苦情相談日を利用しての申し出が5件、それ以外での申し出が2件あった。どの案件も職員による相談援助で解決しているが、施設内の利用の仕方に関する要望については、利用者への周知や協力を求める形で納得していただいた。

平成24年度入退所状況

2013/3/31現在

市町村	入 所		通 所		合 計
	男	女	男	女	
秋田市	20	4	16	6	46
能代市	4	0	0	0	4
横手市	3	0	0	0	3
大館市	0	0	0	0	0
由利本荘市	2	1	1	0	4
男鹿市	1	0	0	0	1
湯沢市	4	1	0	0	5
大仙市	1	0	0	0	1
鹿角市	0	0	0	0	0
北秋田市	0	0	0	0	0
潟上市	0	0	0	0	0
仙北市	1	0	0	0	1
にかほ市	1	0	0	0	1
井川町	0	0	1	0	1
三種町	0	0	0	0	0
羽後町	2	0	0	0	2
小坂町	0	0	0	0	0
五城目町	0	0	0	1	1
藤里町	0	0	0	0	0
美郷町	0	0	0	0	0
八峰町	0	0	0	0	0
合 計	39	6	18	7	70

(10) 秋田県点字図書館

○利用状況

平成24年度の個人新規登録者数は10名、登録抹消者は8名で、前年度より2名増加し登録者数は702名となる。ここ数年の新規登録者は10名前後で大きな変化はないが、登録抹消は高齢によるものが目立った。新規の要因は、視覚障害者情報機器展示会での広報活動や盲学校生徒の登録によるもの等のほか、PR活動の浸透によるものと思われる。なお、団体新規登録は9団体（公共図書館）あり、登録団体数は370団体となる。

奉仕者等による施設の利用状況については、録音室（4室）の延使用者は1,404名で利用率77%、研修室の延使用者は1,951名で利用率78%である。

図書の貸出件数は9,143タイトルで、前年度を232タイトル下回っている。前年度比利用率は、点字図書16%減、デージー録音図書^(注)1%増、テープ録音図書10%減である。点字図書の利用減少は触読利用者の高齢化によるものと思われる。全貸出数に対するそれぞれの比率は、点字図書7.6%、デージー録音図書80.9%、テープ録音図書11.5%である。

(注) デジタル規格の録音図書を「デージー録音図書」と呼ぶ。視覚障害者等のための録音図書は、著作者の許可を得ずとも作成でき、専用の再生機のみで聞くことができる。

○情報提供

- ・利用者からの資料に関する問い合わせは29件で、検索機能を活用して職員が調査し、情報を提供した。（レファレンスサービス）
- ・電話リクエストによる利用者の希望する新聞記事の読み上げを月曜日に43回実施し、80件の情報を提供した。（テレホンニュースサービス）
- ・点字、録音による「点字図書館だより」を毎月発行し、当館の新刊案内や新書の紹介、その他の様々な情報提供を行った。
- ・視覚障害者情報機器の展示会を10月に開催し、利用者や他の視覚障害者へ最新の情報機器の紹介と図書館サービス案内を行った。（参加業者 県内2社 県外2社 参加者80名）
- ・点字・音訳刊行物を延べ13,020部発行し、様々な情報を提供した。
- ・利用者から依頼を受けての図書等製作や複製等のプライベートサービスを行い、個人が必要な情報を数多く提供した。

製作（点訳104件・音声訳49件・デージー42件） 複製（42件）

○図書の製作等

点字図書154タイトル(617冊)、テープ録音図書11タイトル(82巻)、
デージー録音図書123タイトル(123枚)を製作し、蔵書として受け入れた。
タイトル数は前年度比より3パーセント(10タイトル)減少している。

24年度分の蔵書に占める当館製作率は71%、厚生労働省等からの委託図書
29%、購入0%、寄贈1%である。

○地域生活支援事業

・奉仕者養成事業

点訳・音声訳奉仕者養成講座を6月から3月まで、各30回開催した。その結
果、点訳5名、音訳4名が修了し、当館奉仕員として登録することができた。

なお、修了生は今後2年次研修を行い、資質(技術)の向上に努めていく。

・即時情報ネットワーク事業

日本盲人連合会が提供する毎日の新しい情報を点字版で11名、延べ2,288
名に、電子メールで11名、延べ2,767名に提供した。

・声の広報等発行事業

録音版の「県議会だより」を年4回、「県政だより」を年6回製作し、県議会
だよりを延べ678部、県政だより「あきたびじょん」を延べ955部発行した。
利用実人員は、321人である。

○会議等の開催

・ボランティアグループ代表者会議(4月)

・点訳奉仕者研修会

講演会「音訳における図、グラフ、写真等の処理」(3月)

(講師：鈴木頼子氏)参加者50名

・奉仕者表彰式(11月)(理事長表彰5名 館長感謝状12名 記念賞27名)

・利用者、職員、製作ボランティア、苦情解決委員及び開催地行政担当者との懇談 会

6月：大館市 参加利用者 10名(付添者1名含む)

9月：秋田市 参加利用者 3名(付添者1名、盲導犬1)

・23年度の苦情(相談等)は無く、3月の苦情解決委員会で報告した。

○地域交流等

・「中学生の職場体験」を2度受け入れ(生徒9名)、貸出・蔵書管理体験を実施 した。

・夏休みの親子での点字図書館見学に対応し、点字への関心を深めた。

(見学者11組 27名)

・点訳ボランティアの協力により小学校での点訳指導を行った(秋田市内2校)ほ か、音訳ボランティアの協力により、市(能代市、由利本荘市、大仙市)の声の

広報発行に携わっているボランティアへの音訳指導を行った（6件）。

- ・学校、団体等の依頼により、点字器の貸出に対応した（5件）。

○公共情報への協力

- ・国、地方自治体からの公報等の点訳・音訳の依頼に応え、ボランティアの協力により点訳版、音訳版製作、発送作業を行った（3件）

○経費の節減

指定管理施設であることを自覚し、毎月の職員会議において光熱水費等の使用状況を周知するとともに、特に節電については目標を定め運営費の節減に努めた。

年間の図書受入状況

受入別 (H24. 4. 1~H25. 3. 31)

受入 区分	点字図書		録音図書(テープ)		デジター図書(CD)	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
厚生省 委託	68	100			48	48
自館製作	154	617	11	82	123	123
複製						
購入						
寄贈	3	10				
計	225	727	11	82	171	171

合計 443タイトル(1,096冊・巻・枚)

(H24. 4. 1~H25. 3. 31)

	点字図書		録音図書		デジター図書		合計		タイトル 構成比
	タイトル	巻数	タイトル	巻数	タイトル	巻数	タイトル	巻数	
0 総記	12	38	6	43	45	47	63	128	0.7%
1 哲学	17	55	11	69	121	121	149	245	1.6%
2 歴史	23	87	78	881	185	187	286	1,155	3.1%
3 社会科学	34	134	40	263	236	239	310	636	3.4%
4 自然科学	71	266	26	165	214	218	311	649	3.4%
5 工学	11	34	0	0	36	36	47	70	0.5%
6 産業	3	8	6	37	25	25	34	70	0.4%
7 芸術	22	85	26	176	105	105	153	366	1.7%
8 語学	4	14	6	36	68	68	78	118	0.9%
9 文学	497	2,340	852	7,206	6,363	6,427	7,712	15,973	84.3%
合計	694	3,061	1,051	8,876	7,398	7,473	9,143	19,410	100.0%